

令和元年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

令和元年9月13日（金曜日）

議事日程第2号

令和元年9月13日（金曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤惣一郎君	2番	東野恭行君
3番	山本剛君	4番	吉川慶一君
5番	中村実君	6番	滝川正義君
7番	佐藤孝君	8番	新保峰孝君
9番	田原実君	10番	保坂悟君
11番	笠原幸江君	12番	斉木勇君
13番	高澤公君	15番	田中立一君
16番	古川昇君	17番	渡辺重雄君
18番	松尾徹郎君	19番	五十嵐健一郎君
20番	吉岡静夫君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長 米田 徹君 副市長 藤田 年明君

総務部長	山本 将世 君	市民部長	五十嵐 久英 君
産業部長	見辺 太 君	総務課長	渡辺 成剛 君
企画定住課長	渡辺 孝志 君	財政課長	大沢 喜昭 君
能生事務所長	土田 昭一 君	青海事務所長	穂 苺 真 君
市民課長	小林 正広 君	環境生活課長	高野 一夫 君
福祉事務所長	川合 三喜八 君	健康増進課長	池田 隆 君
商工観光課長	大嶋 利幸 君	農林水産課長	猪又 悦朗 君
建設課長	五十嵐 博文 君	復興推進課長	斉藤 喜代志 君
会計課長	山口 和美 君	ガス水道局長	樋口 昭人 君
会計管理者兼務		教育長	井川 賢一 君
消防長	丸山 幸三 君	教育委員会こども課長	磯野 豊 君
教育次長	磯野 茂 君	教育委員会生涯学習課長	
教育委員会こども教育課長	泉 豊 君	中央公民館長兼務	小島 治夫 君
教育委員会文化振興課長		市民図書館長兼務	
市民会館長兼務	伊藤 章一郎 君	監査委員事務局長	渡辺 一彦 君

〈事務局出席職員〉

局	長	松木 靖 君	次	長	山川 直樹 君
係	長	上野 一樹 君			

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、7番、佐藤 孝議員、18番、松尾徹郎議員を指名いたします。

## 日程第2．一般質問

### ○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は13人ありますが、議事の都合により、本日5人、17日5人、18日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

### ○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

### ○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

久しぶりのトップバッターです。よろしくお願いいたします。

通告書に基づき、3項目について質問いたします。

質問1、次期ごみ処理施設の建設と運営について。

(1) 次期ごみ処理施設の諸課題について、特に他自治体等で建設する同時期、同規模、同性能の施設と建設費、運営費を比較した場合、糸魚川市のものはかなり高額です。その理由について伺います。

(2) 施設建設の市民周知、市民の見学活用、施設を使った環境フェアについて伺います。

(3) 海洋プラスチック処理等環境問題解決への貢献について伺います。

質問2、広域観光連携における大糸線の活用、その現状と課題について。

(1) 大糸線活性化協議会について、特に大糸線廃線へのJRの動きについて伺います。

(2) 公益法人深田地質研究所が提唱する「ジオ鉄」としての活用について伺います。

(3) 鉄道ジオラマ、キハ52車両展示スペースの拡張と観光活用、鉄道グッズ販売等について伺います。

(4) えちごトキめき鉄道との連携、民間の知恵をいただくことについて伺います。

質問3、糸魚川市の責任で進める復興再生事業、にぎわいのある暮らしやすいまちづくりについて。

(1) 駅北広場、防災公園、市民公園の建設の経緯と活用について伺います。

(2) リノベーションスクールによるにぎわいづくりについて伺います。

(3) 高校生や若者が日常的にやってくる「にぎわいの拠点整備」について伺います。

(4) 若いファミリーが好んで住んでくれる環境整備について伺います。

(5) 日本海に一番近い新幹線駅、糸魚川の海の幸、新鮮な食材を生かした復興再生について伺います。

(6) 大学生等まちづくりボランティアの受け入れと活用について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、環境省の入札の手引きに基づき算定した予定価格の89.3%で落札されており、適切な金額と考えております。

2点目の施設建設の市民周知につきましては、市のホームページで公開いたしております。市民の見学活用につきましては、ごみ処理施設の仕組みなどを学習していただき、ごみ減量推進などに活用していきたいと考えております。

また、来年度の環境フェアの会場として利用し、広く市民に見学してもらえるよう計画してまいります。

3点目につきましては、新施設の稼働により、リサイクルができないプラスチック類を焼却することが可能となり、貢献できるものと考えております。

2番目の1点目につきましては、JR西日本は活性化協議会の構成団体として沿線自治体と連携し、活用促進事業に積極的に取り組んでいただいております。

2点目につきましては、24年に協力してジオ鉄マップを作成いたしており、今後もジオ鉄を活用し、利用促進に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

3点目につきましては、首都圏からも鉄道ファンが訪れるなど好評であり、より魅力的な施設を目指す必要があると考えております。

4点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議において、利用機運醸成を目的としたスタンプラリーをえちごトキめき鉄道と連携して実施しております。また、関係者が一体となって活性化に取り組んでいく上で、大糸線を応援してくださる方との連携は、重要であると考えております。

3番目の1点目につきましては、敷地再編を行う中で、被災者等から市が引き受けた用地の一部を広場・公園として整備し、一時的な避難所や住民の憩いの場、人々の交流や新たな起業へのチャレンジの場として活用してまいります。

2点目のリノベーションスクールを通じて、当事者としてまちづくりにかかわる人材育成を目的といたしており、新たな空き家活用につながることを期待いたしております。

3点目につきましては、駅北地域のまちづくりについて、まちづくり会議で検討していく中で、にぎわいの拠点の役割や位置づけも検討してまいります。

4点目につきましては、働く場や子育て環境など、若い世代が暮らしやすくなるようなまちづくりをしていきたいと考えております。

5点目につきましては、引き続きにぎわいのあるまちづくりプロジェクトに基づき、恵まれた資源を生かし、まちづくりを進めてまいります。

6 点目につきましては、早稲田大学ボランティアセンターが30年度から復興支援、にぎわい創出を目的とした活動を行っていただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9 番（田原 実君）

では、ごみ処理施設について再質問します。

工事は順調に進んでいますか。ただ、建設状況の市民周知は不十分です。以前よりホームページでの紹介を見やすく工夫してほしいと言ってきましたが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

おはようございます。

お答えいたします。

工事の進捗状況ですが、ご存じのとおり最初、地下埋設物の撤去工事に1カ月を要しました。こちらのおくれが当初出ておりましたが、今、鋭意取り戻せるよう努力をさせていただいているところでございます。

ホームページでの更新につきましては、実際に工事が行われましてから1年少し、それと工事が目に見える形になってきてからは10カ月程度が経過していると思います。こちらの中で、8回のホームページの更新を行っておりまして、写真を多用した工事内容に変化があるのがわかるようなホームページの更新を目指していただいておりますが、議員おっしゃいますように見づらい部分もありましたので、いろいろと改良させていただいてますが、今の状態ということでご了承いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9 番（田原 実君）

今回、私が通告書でこのことを上げたので、9月10日からトップページから見られるようになったんじゃないですか。

それと写真はあるけども、解説が足りないですよ。どんな施設をつくってるのか、あるいはどんな目的なのかがわからない。それをやっていただかないと市民周知にならないと思うんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

トップページの更新は、たしか8月19日の更新からだったと思いますが、やはり市のホームページのトップページ更新しましても、どんどん下がっていってしまうものですから、見づらい時期があるかと思います。

また、説明につきましては、これからもわかりやすいものに鋭意努力したいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、改めて焼却システム、性能、建物構造、面積の説明をお願いします。それから、コンサルタントと設計発注先、工事発注先、運営委託先と、それぞれの契約額及び発注方法を説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

それでは、まず今回の施設の整備・性能ですが、従来、炭化炉という形式をとっておりましたが、今回からはストーカ炉という形式をとらせていただいております。

今回の整備につきましては、ごみ処理施設建設工事の契約額については58億3,200万円、落札者はエスエヌ環境テクノロジー等の共同企業体でございます。

大変申しわけありません、あと何でしたっけ。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前10時12分 休憩〉

〈午前10時12分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前10時13分 休憩〉

〈午前10時15分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

資料の整理が荒くて申しわけございません。

性能につきましては、先ほど申し上げましたようにストーカ炉、24トンの2炉、合計48トンが処理できるものであります。建物構造については、SRCがメインの工事になります。面積については4,396平米となっております。コンサル会社につきましては、日本環境衛生センター、費用につきましては6,156万円となっております。運営団体につきましては、サンバイロ糸魚川株式会社、こちらのほうの契約金額につきましては79億7,000万円となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございます。発注方法も教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えします。

設計・施工一括発注となっております。性能発注方式でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

DBOということで考えていいですね。

他自治体等で建設する施設と建設費、運営費を比較していただいたと思います。環境省の循環型社会形成推進交付金内示データベース、財団法人日本環境衛生センターのデータベースに詳細な資料があります。

さて、トン当たりの建設費が、糸魚川の施設よりも高額なものがありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今おっしゃいますとおり1トン当たりの規模と比較するのが適切かと思っておりますが、各施設規模ですとか整備する内容が違うため、一律には言えないのですけども、平成30年度以降の落札

単価を見ますと、数年前に比べますとかなり高額なものになっておりますので、当市のほうの単価につきましても適正だったというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の施設よりも高額なものはあったかと聞いてるんです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

失礼しました。施設につきましては、通常のストーカ炉になっておりまして、見学施設等も大規模なものではありませんので、極端に他の施設との違いというのはないかと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民部長、以前に市民厚生常任委員会においてストーカ炉部分の工事費が、他市の同等のものよりもかなり高額と指摘され、検証することになっていたと思いますが、結局うやむやなままですよね。ストーカ炉部分のトン当たりの工事費が、糸魚川の施設よりも高額なものというのはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

以前、議会のほうへ、常任委員会のほうへお出しした資料の中では、糸魚川市の場合については、トン当たり1億1,250万ということでございます。ほかにも、にかほ市とか標茶町ですか、そういうところが糸魚川より超えているということになります。

先ほども環境生活課長が申し上げたように、それぞれ同じストーカ炉というものにおいても整備する処理能力の違いとか、それによってやはり、すみません、焼却施設については、ある程度、値段のばらつきはあるというふうな状況というふうに認識しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ちょっと違うんですね、質問がね。もうちょっと具体的に言ったほうがよかったですね。滋賀県の野洲の施設と比較したときにストーカ炉部分、そのところの工事費を比較したならば、随分違ったと、野洲が安かったじゃないかと。それどうしてということ、じゃあもうちょっと結果見まし



ようということでしたけど、その検証が済んでないんですよ。それでどうですかという話を聞いています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

今、議員おっしゃった野洲市については、確かに当市の施設よりも相当金額的には安かったという部分だというふうには思っております。

ただ、それぞれの時期の受注状況によって金額が動いているというのが現実だということで、同じストーカ炉という部分についても、その発注・受注時期によって値段が動いているという状況で、一概には単純には比較できないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の施設は、日本環境衛生センターのコンサルタントを受け、DBO方式が建設コストが抑制できて運営のトラブルもないということで、設計、工事、運営の業務委託を進めて、結果的には、1社入札を認めて高額な建設費と運営費で契約せざるを得なくなりました。その過程を私は見ましたが、もともと高額な予定価格を設定し、行政の責任者自身が1社入札を認めていく発言をして、これが糸魚川市の施設の建設費、運営費を高額にしたんじゃないかと、今にして思えば、そのような過程があったかに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

今回のごみ処理施設の発注に当たりましては、先ほど市長答弁にもございましたように環境省の入札の手引きに基づいて予定価格を作成したというもので、市のほうで恣意的に予定価格を高く設定したというものではございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、質問を変えます。

市民が環境について学べる見学ができるように議会から要望しましたが、その後どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

見学ですとか、そういった学習施設の考え方について説明いたします。

今議会で予定されてます委員会のほうには、詳しい図面等をつけまして説明させていただきますが、学習施設について説明させていただく予定となっております。

また、対市民といたしましては、施設見学を考えておりまして、完成後、なるべく早い段階で清掃センターのある須沢地区、またその後は日を決めまして、自由に出入りできるような見学会等も考えさせていただいております。

あわせまして、先ほど市長が答弁いたしましたように環境フェアの開催も考えておりますので、そういったところで周知していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

担当課も武蔵野市、広島市、上越市と一緒に視察し、センスのよさと市民の環境意識啓発の事例に神戸市も見ていただきました。行政規模では比較になりませんが、建設費や運営費を考えれば、糸魚川でも見劣りしないデザインや見学活用を実現できると思っております。大変に期待をしているわけです。

しかしながら、見学活用について、その後、説明がないのはどうしてですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

説明につきましては、議会・委員会等への説明がおくれておりますこと、大変申しわけございません。現在、事業者側から提案を受けたものを委員会で説明する予定となっておりますので、ご了承ください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

見学活用への職員体制と対応を伺います。

1階には受付、事務室、プレゼンの機器を備えた会議室、3階にはプラント内を見渡すガラス張りの見学室と、ハードが整備されていきますが、問題は専門知識を持って市民の環境意識啓発に取り組んでくれる人の配置です。これについてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

議員おっしゃいますとおり、主な学習施設につきましては、3階ということになっております。

学校、小学校等が訪れていただけますのが、小学校4年生の授業になりますので、そういった授業の際には、市の職員が随行することで、3階から1階への誘導ですとか、場合によっては数が多い場合は1階の会議室なども有効活用しながら説明させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

こども課長は、施設完成後の見学活用、担当課から聞いていますか、今初めて聞きましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

このたびの新築に合わせまして、見学ができる施設であるというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

施設を使った環境フェアについて、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

環境フェアにつきましては、科学とサイエンスというような教育活動とともに行っておりますので、清掃センターで全て行えないのかもしれないと。今調整に入っておりますが、次年度の開催につきましては、清掃センターの3階の学習施設のほうをフル活動いたしまして、それ以外のスペースでは、収集運搬にかかわる事業者ですとか、リサイクルにかかわる事業者ですとか、そういったものの展示を進める予定にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

生涯学習課長は、施設完成後の見学活用、担当課から聞いていますか、今初めて聞きましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

直接はお話は聞いておりませんが、教育委員会の中でこども課、こども教育課は隣でありますの

で、そういう話は伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、海洋プラスチック処理と環境問題解決への貢献について、いま一度、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

海洋プラスチック問題ですとかそういったものは、当市だけではなく世界的な問題になっておりますが、今回の清掃センターの変更によりまして、これまで埋め立てに回っていた硬質のプラスチック、固めのプラスチックも焼却に回すことができるようになります。従来は、埋め立てごみとして処理をしていましたが、そちらのほうが燃やせるごみに出せるということから、一定の貢献ができるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

当初、企画・構想がされたときから、また時代が少し変わりましたよね。そういった中で新しい施設をSDGs、皆さんご存じだと思いますが、の課題解決に役立てることを考えるべきではないかと。そういった中で、SDGsの目標17項目のうち、今度つくる糸魚川市の施設で対応できる、できそうなものは何だとお考えでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

海洋プラスチックのお話を聞く中で、市内の飲食店等にも確認してみました。中では、プラスチック製のストローをもう既にやめておられるというようなところもあるものですが、そういったところのまた情報を流したいというふうに思っております。SDGsに関しましては、そういった使うほうの立場、SDGsの目標でいいますと、12番目の目標のつくる責任、使う責任ということになるかと思えます。一般的な飲食店等でそういったものが出ているということになれば、そういったものを少しでも減らしていただくという貢献ができるんじゃないかというふうに思いますし、それ以降は、14番、15番では海の豊かさですとか陸の豊かさという項目がありますので、そういったものに貢献できるというふうに考えておまして、さらに気候変動に直接影響いたしますので、そういったものにも貢献ができるのではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この質問の最後になりますけども、新しい施設を環境問題解決にもフル活用することが高額な運営費を市民にお願いする理由の1つになるし、そうしてほしいと私は思います。SDGsのバッジをつけている米田市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

SDGsの、これはやはり17項目全て、行政も今我々、進めておる中では完結できる方向性と同じだと捉えておるわけでありまして、だからといってつけてるわけではございません。これはジオパークネットワークがSDGsを取り組んでおるわけでございますので、それにつけさせていただいたとるわけでありまして。

しかし、我々はやはりそういったことで、SDGsにかかわらず、その辺を目的を明確にしながらか、そして、その効果を理解いただけるような方向で取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、大糸線活用の2回目の質問です。

6月一般質問でも大糸線の活用を伺いましたが、今回は糸魚川市の資料、大糸線活性化協議会の取り組み方針についてをチェックリストにして掘り下げて再質問します。

まずは、大糸線廃線へのJRの動きについて、担当の建設課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

市長答弁にもございましたとおり、JR西日本は、大糸線の活性化協議会の一員、メンバーとして積極的に利用促進事業に取り組んでいただいております。具体的な活性化のメニューについての提案もいただいておりますし、JRのそれらの感じとしましては、会社として本気で取り組んでおるといような、その意気込みのようなものも、私どもは感じておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

J R 西、J R 東との協力連携で、大糸線の活用、広告宣伝力の活用が方針に示されていますが、具体化したものがあればご説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

車両の活用といたしましては、この10月に小学生を対象にした車掌体験といったような、できるような企画列車というものを今計画しております。

また、11月になりますが、これはバル街と連携した企画列車というものを計画しております。広告宣伝力といった活用の部分でございますが、ことしの3月、J R 西日本の金沢駅の構内におきまして、コンコースの部分、通路の部分を確認いただきまして、沿線市村の観光PRイベントというものを市長も行く中で実施しております。

また、10月から始まりますデスティネーションキャンペーンのパンフレット、あと西日本の新幹線の網棚のところに入っております西ナビの今度の10月号におきまして、市内の観光情報というものを掲載していただくというような具体的な動きが出ております。

以上です。

補足でございますが、金沢のイベントのことに関しましては、前の日、テレビ報道のほうでも報じられたところがございますし、その辺もJ Rのほうの発信力といいますか、その辺はありがたく私どもは感じておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

頑張っていたらということ、その点、感謝申し上げます。

ただ、観光の宣伝全般に言えることなんですけど、その効果は、誰がどのように検証し、また協議会や議会や市民に報告されていくのか、この点、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私ども、この協議会というものをちゃんと組織として事業を計画して、運営・実行しておりますので、それぞれ毎年、その振り返り効果というものを検証して、次の活用、いわゆるPDCAサイ

クルを回しながら、それらの当然、市民の皆様、沿線の皆様に対しての発信を含めた効果の検証というものを進めていくということは、この事業計画の中にも示されたことでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

取り組み方針についての資料を疑うわけではないんですけども、県、市、村の協力連携で何をやるようとしているのか、体制をつくりました、予算おりました、会議はやりました。でも大糸線利用者はふえませんでしたとなった場合に、JRの経営を考えたら早期の廃線もやむを得ないですねという結論を出すための協議会になるんじゃないかと心配をしていますが、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線活性化協議会というものは、事業者も含めた関係者、沿線関係者、新潟県、長野県を含めた関係者が一丸となって、この利用促進に取り組もうということで設立いたしました協議会でございます。県を含む沿線自治体が相互に連携いたしまして、今ある観光資源ですとか、まだ知られていない、開発されていないような、発掘されていないような観光資源、それらの発信というものを連携してやることによりまして、交流人口の拡大を目指すということ。

もう一点は、やはり公共交通ですので、そういうことをやることによって、生活の足という部分の確保にもつながるといった目標というものも掲げております。それら交流観光ですとか、生活の確保ということを進捗を通じて、最終的には、その地域の活性化につながるということ、この構成メンバー全員が共有する目標として取り組んでおるものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご説明いただいたので、協議会の目標というものがわかってまいりました。ただ、この会議には、どんな方が出席し、どんなことが話されているのか、ホームページで会議録を見ました。

2月7日の総会は、5つの議案を質疑・応答なく了承し、45分で終了。5月31日の総会では、4つの議案を質疑・応答なく了承し、35分で終了。これでは何が話されたのか、議案審査のプロセスや、この協議会が何を目指して話し合いがあるのかわからないです。この点を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、協議会の会議には、どんな方が、どういう出席をとということでございますが、大きく分けまして担当レベルの会議、あと課長レベルで幹事会というものを重ねておりまして、それで今度は、それぞれの自治体の長の総会というもの、そういう三層構造でやっております。担当者会議というもので具体的な利用促進策についていろいろ議論を交わしております、あと当然、総会前に開催する幹事会の議案の調整、それらの事務的なこともやっております。

また、幹事会では、今ほど申しました課長レベルによりまして、総会のほうへ提案する事業計画の議案についての協議・確認というものを行いまして、その後の総会によりまして、各団体の長によりまして、その議案について承認をいただくというようなつくり立てにしております。

その次に、ホームページの発信のことに關しまして、今ほど流れというものをお示しましたが、総会にかける段階では、担当者レベルの会議、幹事会ということで、各段階を踏んできております。それですので、その段階で、それぞれの団体が各長に持ち帰りまして、レクチャーをさせていただいております。

総会のほうにつきましては、その辺の事前の会議ですとか事前の説明というものを経た上で総会というものが開催されておりますので、こういう形になっておるんですが、ただ、会議録をそのまま確かに読んでみますと、さっささと終わってしまうような実情でございますので、現状では、少し事務局のほうでこれこれを説明したという部分がなかなか、薄い部分がございます。それらにつきましては、掲載の方法について少し見直しというものを行うことにしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひそうしてください。そうでないとなかなか協議会のことを理解したり、支援していくというふうな気持ちにもならないもんですからね。よろしくお願ひしたいと思います。

さて、6月の一般質問で、私は、もしも大糸線がなくなったらどうなるかということですね。観光入込客が減るといふ仮説のもとに、このエリアの観光戦略を立てたらどうなるかと私は問いました。担当課長は、大糸線は当地域の必要な観光資源、今後、多くのインバウンドが訪問したり、今ある資産が見直される時代が来ることが予想されるので、大糸線活性化協議会等とも連携して、大糸線の活用を考えていくと答弁しました。

私からは、入込客の目標値やその根拠について、みんなで話し合っていないんじゃないか。だから、いつまでたってもイメージのような話ばかりで戦略ではないと生意気にも申し上げたんですが、これ、早急に協議会で仮説と戦略をつくって協議し、議会にも示していただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕



○商工観光課長（大嶋利幸君）

観光サイドの観点でお話し申し上げます。

議員がおっしゃいますとおり、具体的な入込客の目標値をしっかりとした根拠のもとに設定することは、重要であると考えておりまして、この大糸線のみならず、市全体の誘客を進めるための話し合いは、さまざまな機会を通じまして各種団体と進めているところでございます。

当市の観光戦略につきましては、糸魚川市観光協会とともにDMO事業の一環として観光戦略プランを策定することにいたしておりまして、今その準備を進めているところでございます。

また、小谷村、白馬村、大町市のエリアで白馬バレーでございますが、広域連携DMOが立ち上がっておりますので、この組織とも情報交換する中で、この戦略について話を進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

戦略を策定して進めてるという答弁ならいいんですけど、戦略の準備を進めていると言いましたかね。戦略の策定の準備を進めていると。ゆっくりしてますよね。インバウンド対応に早く取り組んだところは、試行錯誤し、実績を上げ、もう次の手を考えていますよ。糸魚川はどうですか。これからですか、時間がかかるんです。もう手おくれかもしれないが、やっていくしかない。まず何をするか。

ポイントは、先ほども申し上げましたが、大糸線をすぐに廃線にさせないことです。廃線の理由となる通勤・通学の利用が少ないのはわかり切ったことで、そこだけを論点にしてはいけません。大糸線には歴史があります。地域住民だけの鉄道でなく、スキーブームのときは維持費がかかる冬季に稼ぎ、長野オリンピックのときは工事と視察で稼ぎ、これからはインバウンドです。でも今後、多くのインバウンドが訪問することは、今のままではあり得ません。なぜかわかりますか。世界の中での糸魚川という都市の存在感が大きな課題としてあります。

6月の私の一般質問に、鉄道会社との連携や観光キャンペーンでの我々の存在感を出していくと、米田市長よりご答弁いただきましたが、そもそも糸魚川のことを知っている海外の方は、どのくらいいますか。海外のエージェントは、白馬は知っていますが、大糸線が糸魚川と白馬をつないでることを知っていますか。そこを検証して、手を打たなければ糸魚川にも来ないし、大糸線に乗るはずがない。これが私の仮説です。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

具体的な検証はしておりませんが、海外のエージェントとのお話の中では、周辺には立山黒部アルペンルートですとか、また白馬バレーなど有名な観光地がありますことから、その結節点である糸魚川や糸魚川駅からの移動手段の1つであります大糸線につきましては、一定程度認識されてるものと推測いたしております。

また、鉄道につきましては、他の線区とつながり、ネットワークを形成することによって利用価値が高まるというふうに考えておりますので、引き続き大糸線の魅力ですとか、また必要性、またジオ鉄などの魅力を通じて情報発信をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今の答弁は、以前にもいただいたような気がします。私が言ってるのは、戦略を策定して、それをどう進めていくか、もうその段階じゃないですかということなので、いつまでも同じ答弁の繰り返しというのはやっぱり困るんですよね。そういったことで、きょうはもう一步踏み込んだご答弁をいただきたいと思って質問を続けたいと思います。

インバウンドが移動するコースを示すのはエージェントですから、国内と海外のエージェントに商談会等を通じて大糸線を使うコースを売り込む必要があります。費用もかかりますが、これをやらなければ大糸線にインバウンドは乗りません。ですからこういう具体策を立てて、大糸線沿線の観光協会や観光部局と戦略をつくり、予算をつけ、実行してほしいんです、今すぐにでも、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先月、台湾で新潟県主催の商談会が行われておりまして、糸魚川市としても初めて単独で参加したところがございます。その中では、当市の観光素材ですとかモデルコースを提案してきたところがございます。

また、広域的な連携といたしましては、今年度、北アルプス日本海広域観光連携会議におきまして、輪行バッグの無料レンタル事業を実施いたしまして、サイクルツーリズムを通じて大糸線に乗り組む取り組みを進めているところでございます。今現在、大糸線を使った旅行商品というものはないのですが、今後、今ほどの連携会議等の自治体や団体が一体となって旅行商品の開発ですとかそういうものにつなげていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

先ほどですか、大嶋課長が鉄道が全体でつながっていることが大切というお話もされましたよね。私、本当そのとおりだと思います。

それで、大糸線が鉄道の大きなネットワークの中で運営されているメリットというものをもう一回検証してみたいと思うんですよね。大切なことは、全国の鉄道路線図に糸魚川から松本までの路線があることで、確実に全国に行けるという安心感を抱く私たちの国民性に訴えることです。そこに大糸線と糸魚川の存在感を出すことも必要ではないでしょうか。

それとインバウンドのことをお話しすれば、東京方面の空港、それから関西と富山に来ますよね。そこからどうやって糸魚川に入ってくるかというルートなんです。ここの糸魚川と白馬のとこだけ考えててもだめですよ。どこから来て、どう回り込んでくるか。もしこの糸魚川と白馬の間の大糸線がなくなれば、もう長野から入ってくると。ますますここのところが細る。となれば、新幹線の停車数も減るじゃないですか。大きな影響があると思うんですよ。そういった中で、この大糸線の活性化の戦略を考えてほしいということなんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員のおっしゃるとおり、特に関西方面から白馬方面へ向かうに当たりましては、大糸線が重要な路線となってまいります。北陸新幹線の敦賀方面への延伸に伴いまして、そのニーズも伴ってくるというふうに思っておりますし、昨日も金沢の旅行会社の方がお見えになって、富山空港から入ってくるお客さんの流れとか、そういうものについても議論をさせていただいております。今後とも大糸線の路線のみならず、周辺の交通等も活用した中での利用促進につなげていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

その必要性は、ここにいる皆さん全員が考えていると思うんですよ。それで、きょう申し上げたいことは、民間経営の地方鉄道では、観光活用して利用者をふやしている事例があります。そして、そういったところには、リアルな戦略があります。糸魚川には、それが不足していた。今後は、その戦略を盗んででも大糸線活性化の戦略を立てて実行することに全力を挙げるべきと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線の活性化協議会で事業を展開していくに当たりましては、これは効果的で、それを段階的にやっていくと、そういう進め方をしようということを協議会設立時に確認しておくことでございます。協議会を2月に立ち上げて以降、今はもう各種事業のトライアルとか実施の段階に入ってきておるというふうに私どもは捉えております。それぞれの自治体におきましても、それにかかわる人数というのは、ある程度限られるんですが、それはお互いのノウハウというものを共有して、それを補いまして、後は、もとは鉄道でつながるとということは、逆にもっと広い範囲を見なきゃいけないということですから、それらのよい事例というものも参考にして、とにかく前向きに取り組んでいきたいというふうに私どもは考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

頑張って進めていただきたいと思います。

きょうは、大糸線の活用と糸魚川への誘客についての提言を3つしたいと思います。

まずは、地元の人材活用です。糸魚川には、さまざまなジャンルで知識や経験を持つ方がおられます。例えば日本海クラシックカーレビューです。ことしで28回目、年々、来場者数がふえ続けるのは、実行委員会の皆様が毎回毎回真剣に企画を練り、お客様へのおもてなしに努めてきたおかげだと思います。

さて、7月7日に新幹線駅ジオパルで、鉄道ファンのイベントがありましたが、担当課もご存じですよね。これまでにない来場者があったと聞きましたが、鉄道愛好家や鉄道に興味を持つ子供たちを招くため、アイデアを練り、おもてなしをした方たちがいたおかげだと思います。この延長上に来訪者をふやし、ひいては大糸線の利用者をふやす戦略があると考えますが、この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

去る7月7日の鉄道ジオラマのイベントにつきましては、ジオパルのスタッフですとか鉄道ファンのつながりから、全国からさまざまな団体からご参加いただき、入り込み数3,000人となるイベントまで成長してまいっております。

議員がおっしゃるように、本市には、この鉄道だけじゃなくてさまざまなジャンルにおいて専門的な知識ですとか経験をお持ちの方がいらっしゃいますので、今後ともこれら各種イベントの計画に当たりましては、このような人材の意欲ですとかアイデアを可能な限り取り入れまして、進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

通告書の（3）鉄道ジオラマ車両展示スペース拡張と観光活用、鉄道グッズ販売は、ジオパルのスタッフさんと観光協会からいただいた糸魚川への誘客と鉄道利用をふやすためのお知恵です。ぜひ取り組んでいただきたいと思います。この点、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

鉄道のジオラマコーナーにつきましては、展示品がふえてきていることに伴いまして、手狭にな

ってきてるのが事実でございます。現在、そのスペースの活用方法について検討する必要があるということで、協議を進めているところでございます。

また、鉄道グッズの販売につきましては、その内容について観光協会と検討しており、その内容が固まり次第、JR側と販売についての協議を行うことといたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

キハ52の車両と、そして展示スペースは、もっと生かせると私は思います。インスタ映えするようにさまざまな工夫を施し、格好いいユニフォームを貸し出し、コスプレして写メールをしてみるとか、鉄道ファンが喜びそうなあらゆることを考えて試してみるんです。糸魚川のジオパルで楽しい鉄道カフェが定期的であれば、人は来ますし、経済効果があります。

提言の2つ目は、専門家の知恵の活用です。行政もJRも観光に明るいことは否定しませんが、大糸線の起死回生には鉄道観光の専門家のフレッシュな知恵は不可欠です。リゾート列車雪月花デザイナー、川西康之先生のたくさんの知恵と経験から知恵をいただくべきです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

旧トワイライトエクスプレスの調度品を活用した展示施設というものを今、糸魚川市のほうで計画しておりまして、これらの本当に構想の段階から、川西さんのほうにはかかわっていただいております。これは川西さんとは、今、今度トワイライトエクスプレスの調度品の工事の実際の監理業務という部分、非常に細部にこだわりの持っておられる設計者でございますので、監理業務というものもお願いする中で、この中で引き続き、おつき合いをさせていただきますので、そのおつき合いの中で今度いろんなお話をさせていただく中で、この大糸線みたいのも川西さんは非常にフランクに率直にしゃべっていただける設計者ですので、その辺についても会話みたいのもするところから始めてみたいというふうに私どもは考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひよろしく願いいたします。

そして、えちごトキめき鉄道の新しい社長に今回なられた鳥塚 亮さん、大糸線存続に背水の陣で臨む今、絶好のタイミングで近くに来ていただいたと私は考えています。鳥塚さんは、キハ52等、ディーゼル車を使った誘客で千葉のいすみ鉄道を再生した方で、以前、糸魚川で講演をされたことがありました。このことをチャンス到来と考え、大糸線活性化協議会に入っていただくべ

きと考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先日、鳥塚さんの社長の就任会見というものがあまして、えちごトキめき鉄道を全国に知ってもらえるようなことが大きな仕事だと考えておると。鉄道が全国区になれば沿線地域の特産品も売れるようになります。そういう部分にも力を入れたいというような発言をされております。

田原議員おっしゃるように、いすみ鉄道の活性化というものを非常に進められてまいりまして、いすみ鉄道というものを全国区に押し上げたという実績がございます。大糸線とえちごトキめき鉄道の連携というのは、大糸線の活性化にも大変必要なことですので、ただ、まだ今、社長に就任されたばかりでもございますので、それらの連携の中で機会を捉えて、また相談できるところは相談していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご本人のご意向もあると思います。しかし、幸運の女神に後ろ髪はないと、ことわざにあります。ぜひこちらからお願いして、鳥塚社長さんのお力をいただいて、大糸線を支えていただきたいと思います。

提言の3つ目は、鉄道マニアや旅行愛好家、模型愛好家の方から鉄道とかかわる楽しみをおすそ分けしていただく、そんな仕組みをつくっていけないかということです。私が思いつくのは、市内の小中学生のジオパル、ジオラマ、キハ52、そしてリゾート列車雪月花のホームでの見学ツアーです。これに関しては、教育長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

教育委員会への提言として受けとめさせていただきました。私自身もキハ52の出庫と入庫に携わらせていただいております、ジオパルですとか駅周辺に行くことは、結構ございます。そういった中でやはり感じるのは、子供たちが非常に多く来ているなということです。

また、子供たちに限らず、大人の中にもやはり鉄道が好きな人が非常に多いということで、その部分も含めて今、田原議員からご提言いただいたことについては、教育委員会としても担当課も含めて検討させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よいご答弁をいただきました。

加えて、提言になろうかと思えますけども、鉄道イベントに参加してくれました、7月7日のイベントに参加してくれて活躍してくれた東京の聖学院中学校の生徒さんと、それから市内中学校の生徒さんが一緒に楽しく大糸線に乗るツアーを子供たち自身で企画して乗るとか、また、今ほど教育長のお話もございましたが、鉄道好きな市民が車中でガイドして沿線都市や集落をめぐって学ぶ大人向けのツアー、こういったことを担当課と、それから教育委員会、これは生涯学習になるんでしょうかね、一緒に検討して実施していくことが大糸線利用につながるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

観光として多くの人から糸魚川に来ていただくということも大事ですが、生活の足も大事です。ただ、糸魚川の市民の皆様が大糸線というものをもっと知っていただくということが、私は大事なんだと思います。その中で、今議員のほうでご提言をいただきました糸魚川の人たちに大糸線を知ってもらえるような、鉄道を知ってもらえるような取り組みというものは、この協議会の中で、当然、沿線市村とも連携しながら進めていかなければいけない、私は課題だというふうに捉えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大糸線の活用には、多くの知恵が必要です。地域住民の愛着が必要です。時間もかかります。その知恵と愛着を取り入れて、大糸線を活用する人をふやすには、小谷、白馬、大町の住民とも連携できるオープンな協議会の運営とする必要があるのではないのでしょうか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおりでございます。沿線地域の皆様ですとか、沿線地域にかかわらず鉄道ファンの皆様から、大糸線に目を向けていただくというためには、この大糸線利用促進の取り組みについて数多くのアドバイスですとかヒント、そういうものを私どもにアドバイスしやすくするとい

うような、そういう協議会としての取り組みというのは当然必要であるというふうに考えてまして、私どももそういうふうに進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

あえて繰り返しますが、大糸線活性化協議会は、大糸線廃線への軟着陸を模索する会議体ではなく、未来を見据え、リアルな戦略を実行するために運営されることを望みます。

最後、市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大糸線の重要性は、改めて言うまでもなく糸魚川市にとっては大切な公共交通機関であります。それにつきましては、今ほど各課長が述べたとおりであります。そういう中において、北陸新幹線が開業したわけございまして、北陸新幹線をやはり存続するため、存続といいましょるか糸魚川駅を存続するため、そして停車本数をやはり堅持していくためには、この乗降客が確保しなくちゃいけない。その上においても大糸線というのは、私は非常に重要な施設であるわけございまして、これからもしっかり努めていかななくてはいけないと思っておりますが、しかし、市民の中においてもやっぱりそういった機運が高まっていかななくてはいけないと思っております。まずは、マイルール意識を高めていくことを我々はやらなくてはいけないと思っております。そういう中で観光に使用して、よそからおいでいただく方々からもたくさん喜んでいただけるような形をつくっていきたいと思っておる次第であります。そういう中においては、議員いろいろご提言いただきましたし、また、市のほうといたしましてもいろいろ、今、思慮してる部分がございますので、その辺を合わせながらしっかりとしたものにつくり上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大糸線を愛する気持ちは誰にも負けないという米田市長だと思います。ぜひよろしく願いいたします。

では、質問の3でございます。復興再生事業について2回目の質問をさせていただきます。

駅北広場、防災公園、市民公園の建設の経緯と活用の詳細について、いま一度担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕



○復興推進課長（斉藤喜代志君）

おはようございます。

駅北広場防災公園、市民公園の建設経緯につきましては、あそこで敷地の再編等を行う中で、あの被災地の中から再建に向けては転出されて、そちらに土地は要らないのではという方、そういった方の土地を市のほうで積極的に譲り受けさせていただきました。その土地の中から拡張した市道の用地や、それから再建したいんだけど敷地が狭い方の宅地へのつけたしといったことに利用させていただいた。なおかつ、その残余の土地が、基本的には市民公園等の敷地になっております。そういったところをどのように今回の復興の中でそういった土地を活用していくかといったところで、防災ということで火災を防ぐ意味合いと、それから災害での一時的避難場所、そういったような防災の意味合いのある広場にしていこうといったところから今回、整備を進めてきております。

駅北広場につきましては、それからの地域の交流やまちづくりへのチャレンジの場としてという位置づけがございますが、その他の市民公園、防災広場として整備したものとしましては、そういった防災の意味合い、一避難所というような意味合いと、プラス通常に市民の方から憩いの場としてご活用いただく、それから糸魚川を、糸魚川の町の中を回遊していただく、そういったものの施設の1つとして活用していただきたいということで設計しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民に対して十分な説明と市民理解があって、広場や公園はでき上がったのでしょうか。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

今回の広場整備等につきましては、まずは被災者関係説明会等の中で、こういった広場を整備したいというような内容について、ご提案させていただいております。

それから、それぞれの広場の周辺に、今回ブロック意見交換会やった、そういったブロックごとぐらいになりますが、周辺の皆様にその広場の内容等についての説明もさせていただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

イラストと写真でこんなイメージです、わくわく感がありますと、一方的な具体性のない説明だけで工事が始まり、どんなものかがわかったのは、完成後だという市民の声があります。これどうしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

広場の設計内容等につきましては、今ほどもお話しさせていただきましたが、ブロック単位ぐらい、その中で関係する周辺の皆様には、内容についての説明をさせていただき、特に近隣の方については、近隣との境界等どうしましょうかというあたりも丁寧に説明し、協議をしてきたつもりではございます。

ただ、全般的なところと申しますか広くという部分になると、その辺は被災者関係者説明会で示した図面レベルでしかできてないといった部分はあろうかと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大町潮風市民公園の利用目的、広さ、工事費、仕上げ等、樹木等、環境への配慮について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大町潮風市民公園でございますが、利用の目的としましては、齊藤課長の答弁にもございましたが、万が一、火災が発生したときに少しでも延焼の拡大を抑えるような空地としての役割、あと災害時の一時避難場所としての役割、また、ふだん通常時には、市民の皆様の憩いの場としての役割、それぞれの利用目的というものがございます。

広さ、工事費に関しましては、面積で773平方メートル、工事費で約3,970万。仕上げでございますが、床面はコンクリートの洗い出し舗装というふうになっておりまして、その中の骨材というものは、黒姫山の石灰石を使ってございます。樹木に関しましては、耐寒性とか、あと潮風ですとか、今回の大火を受けての広場でございますので、耐火性のある樹木というもので常緑樹というものを選定いたしまして、あと周辺環境等の調和ということで大和堀というものも整備いたしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ここは海が見えない、車がうるさい、暑い、何のための公園かという市民の声がありますが、どうしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

先ほどもお答えした内容と関連いたしますが、譲り受けた土地の中から残余の土地を配置させていただいているものであります。ですから、公園の配置そのものについては、全体的にいろんな計画等を持った中で配置できているものではありません。ですから、広場のほうから海が見えないとかそういったものはあろうかと思えます。

ただ、こちらにつきましては、糸魚川市の水道の発祥にもつながるといった井戸があって、申しわけございません、潮風広場です、申しわけございません。海が見えないそのものについては、国道がある、それから、自動車を通ると、そういった条件の中、それをどうにかできる中でという内容では、なかなか最初の配置の部分の中からは、我々としてもなかなかそういった考えといいますか整備の内容については、できなかったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

つくってしまったからしょうがないねと、こういうことでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

そのような考えで事業を進めているわけではございません。与えられた条件の中で最大限どのようにすればいいか、そういったところから今回の公園整備、広場整備を行っているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、大町仲町市民公園の利用目的、広さ、工事費、仕上げと、樹木等環境への配慮について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

利用目的といたしましては、先ほどの潮風公園のほうと同じ部分と、あとここには備蓄倉庫ですとかマンホールトイレ、あとそれらに水を供給するための井戸というものがございますので、比較的ほかの公園よりは、防災という部分の色合いというのが強いのかなというふうに思っております。

強いというふうに設定いたしております。

面積といたしましては約400平米、工事費で1,750万円、仕上げは先ほどと同様にコンクリートの洗い出し舗装でございます、樹木につきましても耐寒性、潮風、耐火性のあるものと中低木を採用しております。あと備蓄倉庫というものがございまして、ここは面積として、建築面積で約71平米でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

備蓄倉庫に触れていただきました。この倉庫の、立派な倉庫なんですけど、内外装仕上げ材と、それから床材と建設工事費、できれば坪当たりの建設費について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

面積につきましては、今ほど申しました約71平米で、内装の仕上げは、天井・内壁ともラワン合材オイルフィニッシュ仕上げというものでございます。外装の仕上げ材は、屋根がガルバリウム鋼板横葺き、外壁は波板のスレートでございます。床材につきましては、コンクリートの金ゴテ仕上げとなっております、これらの建築の工事費といたしましては2,565万円をかけております。坪に割り返しますと

約

119万4,000円、単純計算でございますが、その程度でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これはどんなものが収蔵・備蓄されていますか。いつ何に使われますか。その総額は幾らですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

おはようございます。

お答えいたします。

駅北の防災倉庫には、かけ布団、それから毛布、石けんなどの生活維持活動品、それから油圧ジ

ヤッキ、簡易レスキューセット、救急セットなどの救助資機材、マスク、懐中電灯などの個人装備品、それから保存飲料水、そして、そばにありますマンホールトイレのテントなど、全部で40品目を収納しております。

使うのはいつかということですが、災害時、避難所運営、必ずしもここで使うだけではなくて、避難所にここから持ってって使う。それから、ここで被災した場合に、人命救助の救護資機材がございますので、それを活用して人命救助活動に使うというものでございます。

それから総額ですが、新築に伴って購入したということではなくて、消防防災センター、これは消防本部のことなんですけども、そちらから持ってきまして、備蓄品については持ってきましたし、マンホールトイレのものについては、新たに整備したわけなんですけども、総額で438万6,000円であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。私の感想ですが、備蓄倉庫を何でそんな高価な、高額な建物とする必要があったのかということですね。各地区の消防団の拠点化格納庫のような建物でもよかったんじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

駅北まちづくりの全体計画の中で、広場整備とともに計画されたものであります。確かに各地域に消防格納庫がございますが、そちらには消防団が使う資機材等、それから水防資機材がございますので、保管だけ考えますとそういった施設でも問題はないと思います。

終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

広場整備の中で、特にあちらのエリアにつきましては、景観不燃化のガイドライン等もございません。そういったものに沿った外観等にしなければならない部分もあり、そういったところへも配慮して、今回、外装等についても決定しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

消防団の拠点化格納庫は、一般的な大きさを2階建てで33坪、約2,000万円、坪当たりだと70万円ですよ。片や、坪当たり120万円ですよ。駅北大火後の行政対応を象徴する建物とはいえ、バブリーな建物ですよ。防災公園や市民公園を考える上でも、この建物においてもどこかで浮かれた気持ちになっていたんじゃないですか。どこかを見て、被災者の気持ちを忘れていたんじゃないかと私は思います。

次に、リノベーションスクールによるにぎわいづくりの詳細について、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

リノベーションスクールといいますと、現在いろんな地方都市、かなり大きな都市においても町の中心部の空洞化、スポンジ化というのが課題となっております。そういったものを解決する1つの方策として、空き家・空き店舗等の活用というものを図っていく中での1つの仕組みというところでございます。リノベーションスクールにおいては、おおむね大体6人から8人程度が1つのユニットとなって、課題とされた空き家、そういったものを自分が、自分たちの中での起業やチャレンジ、そういった夢をかなえるチャレンジといったものの実現に向けて、その物件をどのように使えばいいかというのを2泊3日ほどの時間をかけて、ぎっちり事業計画まで作りながら、そういう提案をつくったものをオーナーさんにプレゼンテーションし、そのプレゼンテーションでオーナーさんとの意見がマッチすれば、その物件の実際の改修・活用につなげていくといったことを1つの大きな流れとして行うものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

スクールの講師は誰ですか。復興にぎわい創出広場、今は看板をかえ、にぎわいをとって、ただの駅北広場になったんですかね。この広場、建物の設計者とは、どのような関係になっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

リノベーションスクールの委託先は、株式会社リノベリングになります。そこからスクールマスターとして派遣されている方が、西村 浩さんという方になります。駅北広場、建物の設計自体は、株式会社ワークビジョンズであり、その代表者である西村さんということになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

同じ方が2つのことをやっていて、そこに行政から外注していると、こういうことですよ。それで、大火被災地のど真ん中の建物と、大火で燃えなかった周辺の空き家、これがどのように結びついて復興のまちづくりとなって展開されるのか。果たして、まちはにぎわうのかを説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

まちなにぎわいづくりに欠かせないものとして、主体的に自分事として活動する人材、こういったものがやはり重要であろうというふうに考えております。その中で、そういった考えの中で、人材をやはりそういったことに、まちづくりにかかわっていただける人材を発掘したり、また育てて、一緒に育っていく、そういったところでリノベーションスクールと。人材育成、発掘の場として1つ、それを目的にリノベーションスクールは進めております。

広場の建物につきましては、キッチンなどを使ってチャレンジしていく、まちづくりにチャレンジしていく場所という意味合いで整備を進めております。まちづくりにかかわる人材が出てくる、チャレンジする人材がふえてくる、そういったこと、それらが小さな活動でもいいので、始まることで周辺の空き家等で展開する。そういったことが、その後のにぎわいにつながっていくというふうなことを考えて進めているものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

この取り組みで被災者住民の皆さんは、何を得られるのでしょうか。暮らしやすさですか、商売につながるにぎわいですか、全くわからないですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

やはり今回、一連のこういったにぎわいづくりということで進めている事業というのは、やはりどのように町の皆さんと活用していくかといったところが重要というふうにも考えております。今回の広場、広場といいますか駅北広場、それから進めているリノベーションまちづくり、リノベーションスクール、それとあと先ほどの市民公園、そういったところを、やはりまちづくりにかかわる人たちもいろいろとまちづくりに力を出していただければと思いますし、やはりそこに住んでいらっしゃる皆さんがどのようにあいったものを活用し暮らしていけるか、そういったところ、それも含めて今地域のほう、いろんな方々に参加していただけるような、そういった広場の活用とか、そういったものを今後進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

被災者住民の皆さんは、何を得られるかという質問なんですけどね。コンサルタントと行政のためのリノベーションスクールなんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

リノベーションスクールは、この2月に第1回を行っております。そういった中で、それまでのいろんなまちづくり、復興のまちづくりでのにぎわいづくりといった中で、いろんなことで会議に出させていただいたり、活動をどうですかというようなことで行政側のほうといろいろつながっていた方々、それぞれに活動で頑張りを始めているというふうに思っております。決して、コンサルタントや行政のためにやっているものではなく、そういったところから個々の活動にもつながってきている。これらが少しずつふえていく。そういったところが、また周辺の皆様にもご参画いただく、そういった流れでのにぎわい、それから暮らし、そういったものがつくり上げられていけばというふうに考えているものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

自己実現でまちを盛り上げる市民の思い、若いプレイヤーたちによる未来のまちづくり、それは結構なんですけど、その前に被災してやっと戻ってきて、今の生活に不便を感じながら暮らす高齢者の皆さんのことを、誰か考えてリノベーションスクールをやっていますか。大火の復興でついた予算を市民がよくわからないうちに何でも使って格好つけようとしてませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

まだリノベーションスクールそのもの、そういったものの成果については、今後何年か見ながら検証しなきゃいけない部分はあるかと思えます。

ただ、いろんな今回の復興のまちづくりの中で、地域の皆さんにどのように暮らしを楽しくしていただくか、そういったことをリノベーションスクールでやろうというのではなくて、いろんな形で進めていきたい。その中に市民公園や、あと復興市営住宅の中にある交流スペース、そういったものを活用していきながらご参画いただければといったことで、先週あたりもあそこを活用して、コンサートをやっていただいたりとか、今後そういったものの活用についても、また地域の皆さんと進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）



田原議員。

○9番（田原 実君）

また、経過をよく見させていただいて、改めて質問等をさせていただきたいと思います。

最後に、高校生や若者たちが集うにぎわいの拠点というものを整備していきたいと考えるわけですが、これまでの2年半の中で、高校生や若者からどのような声を集めてきましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

にぎわいの拠点についてというそういう直接の呼びかけ、問いかけ等はいたしておりません。特に高校生につきましては、自分たちが何か町の中で活動できること、活躍できることはないかなということを考えていただくような、そういったことの意見交換会とかそういったものを進めております。今後、拠点も含め、町の中をどうしていくかというところでは、駅北まちづくり会議、そういった中でいろんな検討をしていきながら、また必要に応じてそれぞれ多くの皆さんからの意見等を伺わんなんというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

若者、高校生の糸魚川市民の未来の声を私たち議会も聞きたいんですよ。今までそういうことを全く聞いてないんですよ。そういったものを議会にも出していただきたい。いつ出していただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

具体的にどのようなものといったところでいくと、今までやっているものについては、例えば高校生と町の中でどんなことができるだろうといったところ、そういったお話ししたりしたものについては、記録もございますので、そういったあたりご提示はできると思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

持ち時間がなくなりました。若いファミリーが住みやすい環境整備、新幹線駅と食材を生かした復興再生、まちのにぎわいの基本です。今後、駅北復興まちづくりの特別委員会でも協議し、市民の声を聞き、また伺います。

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。〔18番 松尾徹郎君登壇〕

○18番（松尾徹郎君）

おはようございます。

新年度予算編成を前に、実施計画を中心に今後の施策について伺います。

本年度は、ごみ処理施設建設を初め、健康づくりセンタープール整備事業など、一般会計の当初予算規模としては合併以来過去最高額の307億円の積極型予算となりました。また、来年度以降においても次期一般廃棄物最終処分場整備事業を初め、道路改良、橋梁修繕事業、中学校等大規模修繕など公共施設の老朽化対策工事が予定されています。これら整備計画を、いかにして効率よく財源を確保しながら市民要望に答えるか、大きな課題だと思います。長期財政見通しでは、今後、予算規模が縮小傾向になり、特に投資的予算も最盛期の3分の1程度になることも予想され、今後の予算編成が気になるところです。

合併15年目を迎え、合併特例法による優遇措置である合併特例債発行期限も令和2年で終わろうとしています。合併時の新市建設計画もこの優良債を活用しながら忠実に実行することができましたが、今後の施設整備における財源確保については、厳しいものがあると思います。特に合併特例債発行も終了し、優良債と言われる過疎債を活用するにしても、各年度の起債に制限があり、また、後年度の返済額も考慮すれば、これまでのように積極的に幾つもの整備事業を行うことは難しい状況にあります。今後、人口減少がどこまで進むのか、また、それを補うための移住・定住対策、あるいは交流人口拡大のため、外国人を初め観光入込客増大策をどのように図るのか、さらには最近、中小企業の事業承継問題も取りざたされていますが、地元企業の発展はもとより、新たな企業誘致や産業振興策をどのように図るのか、さまざまな課題が山積しております。

将来に対して、決して悲観的になり、不安をあおるつもりはありませんが、市税を初め地方交付税も減少傾向にあるだけに、新たな行政需要に答えるためには、廃止する事業は思い切って廃止し、民間でできるものは民間に任せるなど、財源を捻出し、積極的に行政改革を推進しながら今後の行政需要に答えていかなくてはなりません。まさに糸魚川市が転換点を迎えていると言えます。

スマート農業、スマートシティと言われるように本格的なIT、IoT時代が始まろうとしている現在、それらを念頭に置きながら、今後の施策を進める必要があると考えます。

そこで、新年度予算編成を前に、糸魚川市にとって極めて大切な時期と捉え、実施計画を中心に今後の施策について考えを伺います。

(1) 既存企業の発展はもちろんですが、実施計画の概要では、新商品の開発や地域ブランドの創出とあります。観光産業、あるいは農林水産業を初め新たな産業も含め、今後の産業政策全般にわたり、どのような考えか伺います。

(2) 次に、2025年問題、あるいは2040年問題と言われるように、令和の時代はひとり暮らし世帯の高齢者が増加し、高齢者の中でも80歳代以上の高齢者が増加すると言われて

います。実施計画の概要では、ひとり暮らし高齢者の孤独感を解消し、安心して在宅生活を送られるような環境づくりを行うとあります。今後の高齢者福祉政策についての課題と、施策について伺います。

(3) 次に、実施計画の概要では、将来の人口規模や地域の実情に応じた公共施設の整備、また、社会情勢の変化に対応したまちづくりを進め、居住の誘導と公共交通の連携により、持続可能で効率的な生活圏の形成を進めるとあります。どのように克服するか、具体的な方策について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

松尾議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、当市の基幹産業である製造業や建設業などの振興のほか、各産業をつなげ、異業種間連携や6次産業化、地域ブランドの創出などに取り組んでおります。

2点目につきましては、地域の中における高齢者の孤立化を防ぐことは、大変重要なことであると捉えており、高齢者の居場所と出番をつくり、高齢者の生きがいや社会参加の促進を図るとともに、合わせて高齢者が住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを推進してまいります。

3点目につきましては、立地適正化計画に基づき、居住誘導施策を進めるとともに中山間地域においては、現在進めている地域づくりプランの策定や推進を図り、それぞれの地域を結ぶ交通ネットワークを確保しながら、持続可能で効率的な生活圏の形成に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

ありがとうございました。

それでは、まず冒頭に産業政策全般にわたることなんですが、中小企業向け資金貸付事業、本年度は5億4,600万円が計上されておりますが、この地方産業育成資金、中小企業振興資金、景気対策緊急特別資金、ここ数年の利用状況について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ここ数年の制度融資の貸し付け状況につきましては、少ない状況でございます。理由といたしましては、現行のマイナス金利の状況下におきましては、市の制度融資を利用せずに金融機関の融資で資金需要を満たしている状況であるというふうにお聞きしております。

なお、市内の金融機関の預金と貸出金の残高につきましては、ここ数年変化がない状況でございます。資金需要の大きな変化はないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今余り、ここ数年は利用度が少ないということなんですが、やはり金利の問題、少し高目だろうというふうに思います。また、やっぱりそれだけ産業が停滞しているということもあると思います。今盛んに新聞紙上では取り上げられておりますけども、事業の承継問題、これ糸魚川市内においては、現状どうなってるか把握されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるように事業承継の問題につきましては、市内におきましてもこういう問題が起きております。後継者がいない中小企業ですとか、小規模事業者が見受けられておりますけども、事業承継につきましては、その子供さんが継ぐ場合ですとか従業員が継ぐ場合、また第三者が継ぐ場合ということで、いろんなケースがありまして、非常にデリケートな問題でございますので、それ相応の相談機関を通じて、しっかりと対応していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、お聞きしましたけれども、統計いといがわでは、農林水産業者及び商業者の就業人口が激減していると。農業人口については、平成7年度と比較して、もし間違いがなければ多分4分の1ぐらいになってるんじゃないかなというふうに思いますし、商業者におきましては、特に小売業者、店舗数においては20年前と比較して、ほぼ半減。今後、この先どうなるのかといったときに非常に産業構造の変化とともに厳しい状況下に置かれてると思うんですけども、商工観光課として、その辺どのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

当市の就業者数につきましては、人口の減少に伴いまして、軒並み減少傾向でございます。産業別につきましても、第一次産業の減少率は、特に高く、平成17年と平成27年の調査で比べると、第1次産業は約40%の減となっております。また、それに比べれば、サービス業等の第3次産業は、緩やかな減少傾向でありますけども、今後ともこのような傾向が続いていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

そこで、お伺いいたしますけれども、2点について。

市長からも答弁ございましたけれども、裾野が広い観光産業と、それから6次産業に限って、今回お聞きしたいと思います。

初めに、まず観光協会についてなんですが、糸魚川市が観光協会のDMOを取得しましたが、インバウンド観光を推進していく上で、体制そのものに課題があるのではないかと。これは観光庁の顧問でありますイギリス人のデービット・アトキンソン、非常に日本語が流暢な方ですけども、京都の小西工藝という会社で文化財の保護をやっている会社ですけども、その社長が言うには、日本の自治体の観光行政を考えた場合、職員は2年から3年のサイクルで移動することが多く、長期間従事する職員が少ないと。特に自治体職員が観光振興の中心的担い手となっている地方では、専門的人材が育ちにくいと。数年単位で人が入れかわる自治体では、事業の専門性や継続性を確保することに限界があるのではないかと。これについて、当市はどんな状況ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるように観光の政策を進めていくためには、ある程度長期間にわたった継続した取り組みというのが必要であるというふうに考えておまして、当市の糸魚川市観光協会につきましては、日本版DMOに登録はされているものの、その体制につきましては、十分であるとは言いがたい状況であると思っております。ことしから、日本旅行社から1人派遣をいただいたり、また、当課に国際交流員を配置して、以前よりは動きやすい体制にはなってきたとは思いますが、近隣の飯山市観光局ですとか、先進地を見ますと、長期間にわたって専門的な方が勤務されているという状況でございますので、それらを参考にしながら検討していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

これからということなんで、ぜひ頑張っていたきたいと思っております。

市長にお聞きしますけども、今後の課題でありますけども、やはりインバウンドに精通した職員が育ちにくいと、今そういった状況で、専門の方も入れましたけども。多分、糸魚川市の観光協会の中では、商工観光課は事務局という立場じゃないかなというふうに今とるんですけども、今のような人事の異動を頻繁にやりますと、やはり問題が出てくるんじゃないかと。特に今の方が、担当が悪くというわけじゃないですけども、前任の担当者が非常に広域観光の中で頑張っていて努力してきて、今全く違う部署へ行ったと。非常にもったいないなと思うんですけど、市長はこれについて

どう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

基礎自治体のやはり行政業務につきましては、やはり地方公務員という1つの立場もございます。そういう中での各都市の課題に対しての、対応している状況の中で今その観光という部分もあるわけでありまして。

そういう中で、今ご指摘のような課題を考えたときに今、糸魚川市合併いたしまして、ようやく観光協会が今、1つになっておるわけでありまして。そういったところに対して、これから連携をしながら、さらにやはり今そのことを事務局と申し上げましたが、やはり以前の行政の対応を見ますと、どうしても行政が主体になっていた部分が強かった部分がございます。その辺をやはり変化していくことが大切になってくるのではないかなと思ひまして、その辺をこれから観光協会と一体となつてつくり上げていかななくてはならないと思ひておひまして、今、議員ご指摘のような方向を視野に入れながら取り組んでいきたいと思ひておひます。

○議長（中村 実君）

質問の途中でありますが、昼食時限のため、13時まで休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

松尾議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

先ほど市長から、職員の異動については、行政職員であるということで答弁いただきましたけれども、私は今こういう時代、非常に各自治体間が競争しておりますので、ぜひその辺のところを考慮しながら配置をお願いしたいと思います。

次に移ります。

観光振興策について伺いますが、実施計画ではインバウンド推進事業として、3カ年の間、年平均930万円の予算を計上しています。事業の内訳と予算配分について、そしてまた、私としましたら非常に増額すべきではないかなというふうに思うんですけども、その辺の考え方もお聞きしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

インバウンド推進事業につきましては、その主な内容といたしまして、外国人向け誘客活動や受け入れの体制整備を図るために今年度から国際交流員を配置しております、その予算としまして国際交流員関係で約530万円、PR経費として約240万円、インバウンド推進の負担金や補助金で約170万円で、合計が約940万円の予算措置がなされており、実施計画とほぼ同額の内容となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、誘客活動ということで、今度は新たに職員を採用し、そしてまた誘客活動してると。そしてまた、PRとして240万、これ糸魚川市単独で動いているのか、あるいは広域で動いているのか。要するに誘客宣伝、その辺のところどうなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

インバウンド推進事業につきましては、単独で動いているものもございますし、例えば北アルプス日本海広域観光連携会議として、関係6市町村と協働で取り組んでいるインバウンド事業もございます。

今年度は、北アルプス日本海広域観光連携会議といたしまして、台湾から旅行社ですとかマスコミ関係者を招聘いたしまして、当地域の各種体験メニューを紹介したりしております。また、来る11月から開催される台北の国際旅行博にも、この連携会議で参加する予定にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

やっと動きつつあるなというふうに感じがいたします。今広域観光連携のお話が出ましたので申し上げたいと思いますけれども、観光面においてはやっぱり、先ほどの質問の中でもあったかもしれませんが、まだ糸魚川後発だと思えるんですね。したがって、また糸魚川の単独でその魅力を訴えるといったらまだまだ時間がかかると思うので、この広域観光連携会議を、いかに有効に活用するかということになりますと、やはりお互いのメニューを持ち合わせて協議をする。

ちょっと紹介したいんですけども、例えばこれは信州飯山行かれたみたいですけども、飯山のほうでは、信越9市町村でもって広域連携やってると。そして、もちろんスキー場は近くにありますが、自治体によっては非常に恵まれてる地域もありますけれども、しかし、なかなか厳しい市町村

もある、自治体もあるということを見ると、なかなか大変なんですけど、しかし、連携することによってメニューをつくっていく。

先日、私、雪国観光圏、湯沢を中心とした、あれも7市町村、水上町とかやってるんですけど、ここは観光庁が設立したと同時に肝いりの観光圏になっている。ここの事業報告書を見ましたら、年10回ぐらい協議をしてる。今現在恐らく、これ推測で言っちゃまずいんですけど、そこまで行ってないだろうなと。今後の広域観光連携の進め方、やはりそういうメニューを持ち合わせて調整するとか、積極的にそういったものの情報交換をすべきであるというふうに思いますけども、今後の予定について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるとおり近隣のエリアの中では、そういう広域観光、複数の市町村で観光圏をつくって事業を推進してるところが幾つかございます。当地域は、今DMOも単独地域DMOでございましてけども、隣の白馬バレーが広域連携DMOということになっておりますので、またそういう同じ北アルプス日本海広域観光連携会議のメンバーでもございますので、そういう白馬バレーのノウハウ等をお聞きする中で、協力して広域連携、広域観光として進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

実は、3、4年前に京都のほうへ行って、京都市は非常に外国人が来ると。しかし、日本海側の舞鶴とか自治体の名前言って申しわけないんですけども6市町村、京丹後市とか、彼らは1つずつ観光協会持ってたんですけども、それを一旦解散して、京都府肝いりでもって、何とか広域でもって1つの連携を図ろうという形で合同でDMOを1つつくったと。今の雪国観光圏も一般社団法人雪国観光圏という格好で、恐らく単独でやってるんじゃないかなと思います。職員も、これは民間人だと思いますけども、一応14年間はいると。糸魚川市も今スペシャリストを招聘して観光協会動いてますけども、とにかくそういう連携というものが今後必要になってくるだけに、大いに食あるいはもちろん行き先の、いわゆる観光地等々の協議を今後進めていってほしいというふうに今要望しておきます。

外国人の観光入込客について、糸魚川市としては現状どのぐらいの国から来ているのか。その現状を確認したいんですけども、外国人宿泊者数の推移及び現状についてお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

インバウンドにつきましては、宿泊者数のみ把握しておる状況でございまして、30年度が約



3,000人泊となっております、対前年で113.7%となっております、増加傾向でございます。今一番多くいらっしゃるのが韓国の方でございます。あと中国と続いております。

先ほどもお話ししましたが、今年度から県主催の台湾での商談会等にも参加しておりますので、海外のエージェントの方とかと交渉を進めながら、より具体的な提案をしながらツアーの販売につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

本当は、世界各地から来ていただければいいんですけども、距離的な問題とかいろいろ文化の違いとかで、なかなか来づらいということもあるかもしれません。糸魚川市として、どういった国々をまずターゲットにしたのか、今お話を聞いている限りでは、アジアを中心としてるのかなというふうに思うんですけど、その辺のところはどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ターゲットといたしましては、現在、営業を行っているとか交流のある香港、台湾を中心とした東アジアの地域と、あと近隣へ来ていただいている、特に冬期間来ていただいておりますオーストラリアの地域、あと以前から糸魚川の関係者がエージェントを行っておりますスイスあたりが、今ターゲットであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

私もことしの夏、マリンドリーム歩いてましたらイギリス人来てました。やはりぽつんぽつんとヨーロッパからも来てると。しかし、アジア人とヨーロッパの旅行の決定的な違いは、どうもやっぱり向こうは長期間滞在するし、こちらのほうは4泊5日かそのぐらいが普通でないかなと思うんですけども。非常にターゲットをやっぱり絞り込む、最初の段階はね、絞り込むというのは大事だと思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

そして、先ほどの田原議員の質問の中にも答弁でございましたけれども、私は外国語が堪能な方を採用して、その方の国へセールスで行くべきだと。あるいはこの糸魚川市内に住む外国人の方々、本当にお願ひできる方がおられれば、そういった方の母国へ行って、セールス一緒に手伝ってもらおうと。そんなふうに今思うんですけど、その辺のところはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるように一般的なツアーへの誘客というよりは、顔の見える関係と申しますか人と人とのつながりによる営業というのは、非常に有効だと思っております。現在当課に配置しております香港の国際交流員につきましても、そういう人脈とかネットワークも活用する中で営業できないかということで取り組んでいるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

実は、雪国観光圏へ行って聞いたんですけども、確認をしたんですけども、テレビでもやってましたけれども、あそこに住んでられる方はタイ人の女性だったかな、嫁がれてきた。そして非常にその地域を売り込みたいということで、冬の雪国を売り込みたいということで、タイのほうは雪が降らないということで、ご自身、積極的に協力してやってるんだろうと思うんですけども。そんなような空気をやっぱりつくっていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

冬の観光について。冬の観光についてはオーストラリア人等、スキーで来ていることは確認しておりますけども、この辺の誘客宣伝についてはいかがな状況でしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

冬の期間の観光入込客につきましては、30年度の資料でありますけども、12月から翌年の3月までの4カ月間の入り込みは約45万人と、全体の20%ほどにとどまっております。このようなことから、冬期間の誘客が課題の1つであるというふうに考えております。今後とも、あんこう祭り、あんこうフェア等の食ですとか、あと雪の降らない地域、これもインバウンドも含めてになりますけども、雪の降らない地域からの誘客を図るべく取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、最後のほうで雪の降らない地域のこと、国ということでは言われましたけど、私もまさにそのとおりだと思います。我々今まで雪は厄介者としてましたけども、やはり雪を見ただけで感激する国民、国の方もおられるということを知りますと、新潟県では、この間の新聞では、花角知事が中国のほうへオリンピックが始まる、東京オリンピックが開催予定だということで、ぜひこちらのほうにスキーを中心に雪の新潟を来てほしいということで誘客宣伝したみたいですけども、私もやっぱりそれが大事だと思うんですね。今後そういったことを考えますと、冬の観光宣伝というものに対しても力を入れていただきたいと思います。地域では、雪を活用した地域の行事でかまくらをつくったり、キャンドルロードとか、これはやっぱり物すごく感激すると思うんですね、かまくらつくったり。信州飯山でもやっぱりやっています。これら地域とのつながりでやっぱり、今後、それ

も観光商品として検討して行ってほしいというふうに思います。また、地域との協力の中で、地域にも活力を与えるべくやっていただきたいと思います。

観光施設の目的税ということでもちょっとお聞きします。

8月の20日だったかな22日だったかな、日本経済新聞で宿泊税を取る自治体がぽつんぽつんと、たしか三大都市はやってると思いますけども、20市ぐらいが検討していると。これについてどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

全国の幾つかの県並びに都道府県とか市で宿泊税の話題が上がっているのは承知しておりますが、当市につきましては、現時点では目的税の導入については考えておりません。いかに訪れていただいた方から多くお金を落とさせていただいて、それがうまく地域内の経済循環に回るようにしていけたらベストだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

先日のやはり新聞に妙高市にある火打山か、これ国立公園の整備計画という中にやっぱりそういった、500円だったかな、徴収しながらそういったものに活用したいということで出ました。やはり先ほど申し上げた方、デービット・アトキンソンさんが言うには、日本はやっぱりそういうものが下手くそだと言うんですね。今後やっぱりそういったものを検討していかなければならないと。

実は1つ気になったのが、フォッサマグナミュージアム、私これは以前から、随分すばらしい施設にもかかわらず、料金が安いと。まさにジオパークのメイン施設だと思うんですね。

ところが、あれだけの施設であるにもかかわらず、そしてあれだけの内容が濃いにもかかわらず、私としたら低料金だなと。この会計状況をちょっと3カ年の、どうなのかなと思って確認してみました。ちょっと申し上げますが、平成29年度は4,067万円の収入に対して支出が1億6,286万、マイナスの1億2,219万。28年度、ちょっとバックしていきますけど、これが収入の部が4,275万、支出が1億393万、赤字の部が6,117万5,000円と。これを読み上げていきませんが、過去3カ年の合計の赤字額が2億4,900万と。もちろんこれは人件費、いわゆる市役所から行ってるということもあたりしますが、これなんかは指定管理者というのは考える必要があるんじゃないかなということを前に言ったこともありますけども、こういうような形で、いずれまた施設を更新しなければならない、そのときにさっき申し上げましたけども財政状況が非常にこれから厳しくなってくる。国からどんどん補助金が出る間はいいいんですけども、あるいは一般財源のゆとりがある場合はいいんですけども、今後、更新ということを考えていったときにこのような料金体系でいいのか。もちろんこれだけの赤字は、焼け石に水かもしれせん。しかし、もっとこういったものに対して敏感に日本の観光というものを考えるべきだということをおの方は言ってますけど、これについては、もし市長、ご意見があればお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ミュージアムは博物館ということで、確かに糸魚川の観光という部分においては、少し核になっている部分もあるわけでありますが、学習とかそういうやはり教育施設的にも捉えておる部分がございます。そんなことで、今全てそのままでもって賄うというのはちょっと難しい部分がございますので、しかし、と言いながらもやはり運営的な部分というものは大切であるわけでございますので、そういったところを再度料金については検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

臨機応変に対応していただきたいと思っております、最初はね。これちょっと私、言いそびれたんですけど、実施計画では、毎年ここ3年間は600万円ぐらい計上されて、整備ということで。これはどういったのですかわかりませんが、今申し上げたような数字状況なだけに、これは大いに検討していただきたいと思っております。

最後に、観光について最後申し上げたいと思っておりますが、やはり一生懸命考えて予算を計上し、進んでるんだろうと思うんですけども、やっぱりもっともっと有効活用してもらおうべく、外国人が日本へ来る最も楽しみなのが、食事だと。これが70%のアンケートで出てるということを考えれば、今後の飲食の皆さんには大いに検討していただくべく、また、予算も少しありますけども、そしてまた事業にも乗ってますけども、一流の料理人を呼んでレベルアップを図るとか、何かそういった動きをするべきだと思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるように当市につきましては、食材は水産物ですとか、あと農作物に限らず大変すばらしい素材があるというふうに理解しておりますが、講演で来られた方、講師の先生とかのお話ですと、それに比べて若干何といいますか食べさせる工夫について、もう少し改善の余地があるんじゃないかということもお聞きしておりますので、もしそういう業界の皆様が、そういうことが望まれて、市と一緒にやっていけるようであれば、そういうことにも取り組んでみるのも手段の1つであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

うまいもん会とかいろいろやってくれる方も、事業の中でされるんだらうと、イベントの中でやられるんでしょうけども、そういったことについては、大いにまたコミュニケーションを図っていただきたいというふうに思います。

次に移ります。

6次産業については、非常に簡単に6次産業といいますけども、これを黒字化するには大変難しい問題もありますし、4年から5年は非常に厳しい状況が続くということを考えますと、事業者が6次産業を見ていく6次産業と、農業生産者が、個人の場合、見ていく6次産業と、組合でやっている場合は、まだ6次産業というものに対しては、まだ入り込むことができると。立場立場によって6次産業に対する考え方や、やる気の問題もありますけどハードルの高さ、その辺あるんではないかなということをつくづく感じるんですが、それについてはどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

現在6次産業化ということで、いわゆる6次産業化の定義というものは、第1次産業から第2次、第3次と一体感を持って取り組むというものであります。その中で、組合であったり、いわゆる卸しの方々の立場であったり、また個人であったりといういろんな取り組み、農産物を生かした取り組みをされてるのは、議員のおっしゃるとおりであります。

具体的には、法人とすれば、今私どもが把握しておりますのは、おおむね21、また個人の方々であれば10ぐらいということで、その中には、法人の中には協同組合というものも入っておりますけども、おおむね30ぐらいが、私どものほうで現在把握しておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

30社ほどあるということなんですけど、実施計画の概要では、新たな産業の創出として地元産品ブランド戦略の推進、異業種間連携、6次産業化の推進、企業創業支援等が記載されています。これについて、非常に予算計上が、私少額のような気がするんですね。その辺どういう理由なのか教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

今、私どものほうで、特に農林水産分野のほうで申し上げますと、6次産業化への取り組みということで補助しているものが1件、補助事業としてございます。30万円という上限の中で設けております。

ただ、これいろんな委員会等々でもご説明申し上げますけども、6次産業化の一つのきっかけになってほしいということが1点、また、大きな6次産業化ということで、事業規模を拡大す

る等々の取り組みということになりますとなかなか市単独ではできないというところがございますので、繰り返しになりますけども、国・県の補助事業等を一緒にとっていきたいというふうに考えております。

私どもの考える6次産業化というのは、大きなところから小さいところもありますけども、大根を干して、たくあんにする。それを売るというところも6次産業化の枠に入ります。そういったところにも皆さん入っていただけるものは利用していただきながら、少しでも第1次産業の方々にも興味を持っていただきたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足して申し上げます。

この新商品の開発ですとかブランドの創出につきましては、24年度から糸魚川なりわいネットワークというものをつくりまして、活動しておる経緯がございます。昨年度からは、事務局に地域おこし協力隊を採用しまして、より各会員の方向性に沿った方向で取り組みを進めているところでございます。

この会の所期の目的であります新商品ですとかサービスの開発、あと地域ブランドの創出、販路拡大に取り組んでおるところでございますが、その取り組みの年度によりまして若干予算の増減はありますが、必要な予算を措置して進めてきているところでございますので、特に縮小しているとかということではなくて、これらのなりわいネットワークの皆さんとお話をしながら、いい方向に進むように予算措置をしている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

商工観光課と農林水産課にまたがるということを今確認をいたしましたけれども、やっぱり農業者、私も農業者の方、やってる方とちょっとお話したときに、やっぱり考え方でそんなに大きくなくていいんだと。とにかく喜んでもらえればいいんだと。確かにそれも1つの考えだなと。

しかし、先ほど産業面が非常に変わりつつある中で、糸魚川市として、これを何とか成功して企業としてやってけるということを考えたときに、やはり事業者からも参画してもらおうと。実際にすごいなと思ったのは、私は、わさび園さんのわさびと、それからチョウザメ、やっぱり相当な投資もしてますし、そしてまた事業者はやっぱりほかのビジネスで頑張ってもらえるということで、資金的にもやっぱりそれなりの力がないとなかなかできないということを考えれば、やはり今後の6次産業を別の角度でいけば、異業種の方がそこへ入ることが必要だろうなと。というかまた、そっちへ方向性を見出してあげるというか、情報を伝えるというか、それが非常に必要だなということを感じました。

先日、雪国マンゴー行ってきました。掘ってたらお湯が出てきた、これを捨てるのはもったいない。何か使えないかということで、マンゴーに挑戦したと。わさび、SKフロンティアさんも、や

はりきれいな水を捨てるのはもったいないと。これを何か有効活用したいと。事業者からそちらに入っていく感覚というか、やっぱりこれを何か有効活用したいなという考え方、これやっぱり事業者じゃないとできないと思うんですよね。こういうような情報をやはり行政、商工会議所、あるいは会員の皆さんと情報交換をしていくという場を設定すべきであるというふうに思いますが、市長はどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに今、議員ご指摘のとおり当初ではなかなか見えにくい部分がありながら、動き始めていくことによっていろんなことが見えてくる。そしてそのときに、また支援をできる体制が大事だろうと私は思っております。ですから、初期からある程度のものを1回やったら後終わりということではないと思っておりますし、特にまさしくSKフロンティアさんについては、そのような形で、当初から見るといろんな連携の活動をさせていただいております。それはいろんな形の中で対応できる、柔軟なやり方で私はいいと思っておりますし、その辺をほかの方々にも伝えて、またほかの方々にもまた広まっていくような形を持っていきたいなと思っておりますが、今大変な苦勞をされて動いておるわけでございますので、その苦勞を見て、周りが見ておりますから、なかなか次の人たちがなかなか起き上がるというのは難しいことだろうと思っておりますが、しかし、1つの成功例としては、非常に私は宣伝したり、また、それを広めていくことがつながっていくことだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

非常にやっぱり努力をされて、SKフロンティアさんはジェットロにも入り込んで、わさびを世界へ売り込むと、日本食ブームで。そういった非常に発想も豊かだし、行動力もある。こういったお話をやっぱりもとに、市内には非常に有力な企業がたくさんあると思います。そういう方々が、もしそういういろんなお話、苦勞話ももちろん含めて、聞くことによってかなり意識が変わってくるだろうな。やっぱり今後、私は行政に望みたいのは、新たに6次産業化に取り組む事業者に対して、先ほども申し上げましたけども、やはり既に6次化に取り組んでいる形態や民間企業者との交流を通じて、情報交換や支援をしてほしいということをお願いしておきます。

先ほどなりわいというか、新商品の開発についても説明がございましたので、これはもうお聞きしませんが、ぜひ、くどのようなお話になりますが、予算を有効活用するように、そしてもっと増額するべきところは大いに増額していただいて、活力をつくっていただきたいと思っております。

次に移ります。

次に、高齢化対策について伺います。

令和の時代は、高齢者の中でも80歳代以上の高齢者が増加し、一人世帯の高齢者が圧倒的にふ

えていこうと。実施概要では、ひとり暮らし高齢者の孤独感を解消し、安心して在宅生活がおくれるような環境づくりを行うというふうにもありますけれども、中山間地域に住まれているひとり暮らしの方、冬なんか特に大変だと思うんですね。これらについての具体策、どうしていくかお聞きしたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

中山間地域の高齢者の支援につきましては、市長が申し上げたとおり地域包括ケアシステムの構築を初め、ひとり暮らしの高齢者の安否確認、お出かけパス事業、配食サービス事業、そして屋根雪除雪等の費用助成などの生活支援事業の実施によりまして、高齢者の住みよい環境づくりに取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

実施計画では、ひとり暮らし安否確認で毎年320万円、この令和2年、3年。ああ、2年、3年は、この310万円か。そして、共同生活支援事業という形で約5,500万円が計上されています。今後、高齢者一人世帯が増加計画にあるだけに、この辺の共同生活支援事業、これ増額する必要はないかというふうに思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

平成29年度に実施いたしました高齢者の調査の結果では、現在のご自宅に住み続けたいという方が非常に多ございました。共同生活できる施設へのニーズというのは、さほど多くないと推測しております。

ただ、中山間地に住む方につきましては、やはり冬期間、介護サービスを受けることに対する不安、雪に対する不安等がございますので、そういった方につきましては、一時的な対応ということで、介護老人保健施設をご利用いただいているケースが多い状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

市のほうでは、コンパクトシティというふうなお話も出てきてますけれども、やっぱりそれは住む方の自由ですので、なかなか強制的にはできないと思いますけれども、ただ、今後考えていかなければならないのは、空き家の有効活用とか、設備投資するにしても新たなものをつくるというのは大変な金額かかりますけれども、施設の有効利用、いわゆる空き家とか、それから地区にある何か



集会場をどうこうするとか、そういったような形にすることによって、コストの削減といたしますか、介護士さんがあっち行ってこっち行ってどうこうするよりも、やはり1カ所でやれるとか、そういうふうなこともやっぱり考えていく必要があるんじゃないかなと思いますし、また、積極的にそれについては取り組むべきだと。今後の考え方、今申し上げましたけども、市長はどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も今、議員ご指摘のとおり、やはり一番グループで共同生活することが非常にやはり支え合いの対応ができていいのではないかなという形で、いろいろ検討したり、また施設も少し提供するような気持ちでつくるんですが、しかし、今の高齢者の現在の高齢の方々というのは、やはり自分の家を守るという気持ちが非常に強い方々でありますし、そして、今の高齢者の皆様方は自分たちで築き上げたという、やはり今の住みかについては、なかなかそういう共同生活にはちょっと流れがうまくいかない部分があるかと思えます。

しかし、今の時代じゃなくて、この次の世代になってくるとそういうことがなくなってくると思っております。やはり共同生活における利点とかメリットというのは、いろいろと判断の中においては、私は有効であると思っております。ですから、これからはそういう共同生活というのは、我々団塊の世代、やはり施設なり、また高齢の対応ということになってくると、必要になってくるとはではないかなというのは捉えておりますし、これは市内だけではなくて、市外も含めてこれは動き始めるような気がいたします。ここへふるさとの人たちが帰ってくる分にもつながるのではないかなということで、やはり我々は少しその辺を準備してもいいのではないかなというような気持ちは持っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、答弁の中で、私、お聞きしようと思ったのが出てきたんで、答えがあったんで。ぜひそういったものを今後、積極的に進めてほしいなど。計画も立ててほしい。団塊の世代という言葉が出ましたけれども、杉並区と南伊豆町、これは自治体間連携で有名ですし、私も会派で行ってまいりました。

やはり今後、東京のほうは、東京圏といたしますか首都圏のほうは、やっぱり今後、物すごい高齢化で、まず施設つくるにも金がかかる。それから介護士の不足、人件費が高いとか、もろもろの問題が出てくる。そういったときに受け入れ体制、要するに私30年ほど前に、あれはたしか助役さんが、猪又初夫さんだったと思います。人口減少で悩んでるんだと青年会議所のある会議の中で言って、老人集めるだけ集めればいいじゃないかと言っちゃったらやあ、それはもう老人医療でパンクするから、それはだめだと。言われてみて、ああそうかと。

しかし、住所地特例という言葉が今出てきてるだけに今後、いわゆる老人を誘導することによって、私、伊豆よりもこちらのほうが時間的に1時間違うんですよね、早いんですよ。それら等を考えたときにアピールの仕方によったら糸魚川市も適地であると。冬は、今ちょっとネックですけども、しかし、健康老人ばかりじゃなくて、その家族もいるわけですし、交流人口の拡大の1つとしてとれば、これも検討する価値はあるんじゃないかなというふうに思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に今、1つは例は南伊豆町なんですけど、我々のところも同じような距離的にあるかもしれませんが、逆に北陸新幹線開業したということは、やっぱり首都圏から非常に近く感じられる。また、利便性を高く感じられて、考えようによっては、こちらのほうにという気持ちが動くような、またメリットがあるんじゃないかなと思われるわけでございますので、やはり逆に雪の降るところもやはり住めるというのをしっかり位置づけしていくことが大切かと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

1時間糸魚川のほうが早いんで、ぜひぜひ考えていただきたいと思います。

私ちょっと聞き忘れたんですけども、施設介護事業費ということで1億4,500万円載ってるんですよね、たしか。これの内訳は、施設入所支援、療養介護となっているということで、まさに今、同じようなことの繰り返しになりますけども、そういったものを含めると、これもやっぱりもっとも有効活用するための費用として増額すべきなのかなと思いますけども、これは意見として言っておきます。

最後に、時間がありませんので、糸魚川版CCRC構想について、これは企画課になるのか福祉事務所になるのかわかりませんが、糸魚川版としてCCRC構想について、考えがあればお聞きしたいなと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

CCRC構想ということで、生涯活躍のまちというふうに今言いますね。確かにその整備をするに当たっては、やっぱり環境が必要だと思うんですね、医療の環境ですとか介護の環境ですとか。そういった環境が、まず整わないと厳しいというところもありますし、まずはやっぱりここに住んでの方が第一というふうな考え方もあります。

しかしながら、今現在でもアクティブシニアという方、やっぱり都会で長年働いていて、定年一

歩手前でこちらへ、余力のあるうちにこっちへ来たいと。そういう方もいらっしゃいます。それでやっぱりそのスキルを発揮していただいて、市の中でも活躍されてる方というのが結構いらっしゃるんですね。そういったアクティブシニアという方の活躍というのも非常に大事ですので、そういったケアのシステムですとか、そういったところの環境を整える中で、また考えていかなきゃいけないなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今のアクティブシニアという話が出ましたけども、全くそのとおりでと思います。これについては、やっぱり今後、また行政のほうでいろいろな形で考えていただきたいと思います。

最後に、ちょっと私これ順番あれしたんだけど、介護人材が不足するという中で、今後これをどうしていくかということで、予算も480万、そして令和2年、3年が600万となっておりますけども、これについてもっとふやすべきであるというふうに思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

ことしの4月に各事業所へアンケート調査をしましたところ、人材不足につきましては、今の段階ですと約80名ほどでございます。各事業所に聞きましたら、やはり採用も多いところは、やはり年間5、6名ということでお聞きしておりますし、ただ、退職される方もいらっしゃいますので、いろいろ事業所、またご意見を聞く中で、また有効な支援制度があれば考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

60歳代の人材をふやすということはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

やはり60歳代の方は、まだ健康な方は働いていただける年代だと思っておりますので、ぜひ支えられる側でなくて支える側のほうへ入っていただいて、そういった60歳代の就労のほうにも期待をしたいというふうに思っております。

○18番（松尾徹郎君）

時間がなくなりました。

以上で、終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

今回は、協働活動の実態と取り組みの充実についてであります。

地方分権の進展や、市民ニーズの多様化などで行政の果たすべき役割が大きくなっておりませんが、一方で、厳しい財政状況の中、将来にわたって必要な行政サービスを提供していくためには、行政への市民・市民組織・民間企業の積極的な参画が必要となっております。

そのための協働活動の重要性と必要性は、合併以来あらゆるケースで取り上げられ、各種事業などを通じて取り組まれておりますが、なかなか期待する成果に結びついていない感がいたします。

期待する成果が見えれば達成感も共有でき、次につなぐさらなる協働活動に発展するという好循環が生まれます。

情報を共有し、お互いが協力して活動する仕組みなどの基本的なところを中心に伺います。

(1) 協働活動の基本的な考え方と手法についてであります。

少子高齢化、人口減少社会の中にあって、生活の安心・安全をこれからも維持していくためには、地域での日常的なつながりを見詰め直し、多様化する課題に対し協働の力をどのように活用するかにかかっております。協働に対する行政の基本的な考え方と手法について伺います。

(2) 学校と地域や産業との連携、協働の推進についてであります。

小中学校では、学校と地域が連携する小中学校運営協議会制度が導入されたり、学校応援隊の活動も活発に行われており、市内高等学校と市は、連携して各学校の魅力づくり等、取り組んでいます。産学官の協働活動を推進する組織の活動にも期待しており、今後の協働の推進について伺います。

(3) 市道の美化に関する協働活動の提案についてであります。

長期財政見通しから見ても、今後の行財政運営は効率的かつ効果的に進めることが不可欠であり、特に、協働に関する事業を効果的に実施する必要があると考えており、その一例として市道の美化活動に協働の力を取り入れて、わかりやすい実践例としたらいかかと考え、伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、地域の活性化や住みよい地域を維持していくには、市民、地域、行政が一体となって課題を解決する協働の取り組みは、欠かせないものと考えております。

また、市民の活力をまちづくりに生かすため、計画づくりなど政策形成過程への市民参加を勧めるとともに情報を共有し、市民と行政が相互に補完しながら行政課題の解決に向けた取り組みを推進しております。

2点目につきましては、社会に開かれた教育課程の実現に向け、学校と地域との協働は重要と捉えております。小中学校では、今年度は全ての学校でコミュニティスクールの取り組みが始まり、高校でも今年度からは、高校を核とした地域人材育成事業に取り組んでおります。

3点目につきましては、市道を含めた公共施設の清掃や除草などには、さまざまな地域から多くの要望をいただいておりますが、全ての要望に応えられてないのが実情であり、行政の管理ばかりではなくて、地元の協力によって守られているところが多いと感じております。

ご提案の協働活動は、自分の地域を大切にしたい気持ちを育む効果もあると考え、実践例を参考に全市的に広めるよう努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、1点目の協働活動の基本的な考え方と手法についてお伺いをしたいと思います。

かつては住民同士のつながりが地域を支えていたわけでありますが、それが今は、さまざまな公共サービスというふうな形で、行政から私たちに提供されるということは結構多いんですけども、一言で言うといい時代になったというふうな感じもするわけですけども、一方では、このままでいいのかというふうな気がいたしておるわけですが、この辺の感覚というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員のご質問、確かに行政が主導的にやってくれていい時代だったなというふうなご質問ですけども、確かにこうであってはいけないと思います。やっぱり市民が主役で、やっぱり行政と市民が一体となった取り組みというのが必要になってきますし、より一層、これから人口減少社会も迎えておりますので、行政だけの力ではどうしてもできない部分があります。そういったところもありますので、やっぱり一緒になって一体になってやっていくという姿勢は必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

幸いまだまだ、まちの役に立ちたいという思いを持った市民は大勢いるというふうには思っているんですね。その思いを大切にしながら、誰もが気兼ねなく気軽にまちづくりに参加できる協働の仕組み、こういうものがあれば人と人とのつながり、それから喜びを感じられるまちをつくるということができるといふふうに思っておるんですが、その辺の考え方からしてどんな形がいいか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

1つの事例という形でちょっとお話をさせていただきたいと思いますが、企画定住課のほうでは地域づくりプランという形で住民の皆さん、特に公民館エリアになってくるんですけども、住民の自主的な活動に対して行政も一緒にやっていると。で、プランをつくってもらいながら一緒にやっていくという姿でやっております。これも1つの地域エリアの中での住民の皆さんの力をかりるといふ形で、協働のスタイルというのとはとっているというふうに思っております。まだほかにもこういった協働の活動というのは、私が申し上げたのは、たった一例ですので、全市的に見れば多くあると思うんですね。やっぱり役に立ちたいという市民の皆さんの思いというのは、非常にありがたいと思います。そこら辺を議員のご質問にもありましたように、人と人をつなげると。そのつながり、コーディネートするというのが仕組みとしてもうちちょっと必要なのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

第2次総合計画、各章、それから節・項目に、ほぼ各ページ、協働の取り組みについて、協働の必要性というのが載っておるわけですね。そのほとんどの語尾は、行います、推進しますで締めくくられとるわけなんですけど、その先の事業にどのようにつながっているか、ここが問題じゃないかなというふうに感じるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

これを一つの事例という形で具体的にお話をしたほうがいいのかというふうに思っておりますので、まず一つの事例としまして、日本型農業支払事業というのが総合計画の中にあると思うんですね。この事業は、やっぱり地域でのかかわる皆さんの協働作業とかによりまして、そこにある地域資源の活用ですとかやっぱり農村の環境の保全活動、例えば自分たちの集落を潤いのあるものにしたという形で植栽をしたりとか花をいっぱい植えたりとか、そういった景観をつくるという

活動ができていけると思っております。

市とすれば、総合計画の中では推進しますとかそういう言い方を書いてありますけども、具体的にはそういった事業の中でつながっておりますので、今たとえ一例でありますけども、ほかにもこういった事業をやっぱりふやしていかなきゃいけないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長がお話しされた制度、非常に理にかなった協働活動の場であるというふうに私も思っております。全ての章で協働の取り組みとして役割分担が書かれておるわけですが、行政区分けとして総務、産業、市民、教育、消防、こういうふうに分けた場合、それぞれの今部、それから教育委員会、消防本部として協働に取り組んでいる実態をお聞かせいただければと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本総務部長。〔総務部長 山本将世君登壇〕

○総務部長（山本将世君）

お答えさせていただきます。

総務部の関係におきましては、先ほど企画定住課長が申しあげました地域づくりプランというような事業しておりますけど、この策定の段階におきましても行政と市民の皆様方が地域コミュニティの強化、また身近な地域の課題を解決すると、そういった目的に向かって協議をしながら進めることにつきましては、これも1つの協働化と思っております。

また、このプランによって実現する事業の中身につきましても、それぞれ地域の中にある困り事、そういったものを解決手段として事業を起こしていただきまして、これにつきましても協働の一部と思っております。

また、同じ形でまちづくりパワーアップ事業というものを企画定住課のほうで行わせていただいておりますが、こちらにつきましては、市の活性化なり、広く市民に貢献する事業という形の中で補助を出させていただいておりますけども、これやはり市民のそういった活動に対して行政が支援する中での協働の取り組みというふうに考えるとところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

産業部として市民の皆さんにたくさん参加していただくって非常にたくさんあるんですけど、ほんの一部でございますが、例えばごみを拾っていただくボランティアであったり、除雪ボランティアといったのもあると思います。また、桜のオーナー制度、それから道路のサポーター制度もそうでございますし、公園管理、これはまだ糸魚川市としてはやっておりますけれども、公園管理

をしていただく、草刈り等は地元でやっていただいております。そういったことについて、市民や企業、それから行政と一緒に活動してまちづくりをすることが産業部として考えられる協働でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

市民部の分野におきましては、交通安全、防犯、またごみの収集における集積場所の設置とか、あと側溝清掃、草刈り、環境デーとかにおける地域清掃、あと福祉分野においては、ひとり暮らしの高齢者の安否確認作業等で地域の皆さんのご協力をいただきながら、事業に取り組んでるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

教育委員会では、議員のご質問にありますように学校運営協議会、学校応援隊、高校を核とした地域人材育成事業のほか、文化財の維持管理などについて、協働の取り組みによりまして進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

消防本部につきましては、防災と消防というところで担当してはるわけですが、防災、消防ともに市民、地域、市内事業所との協働の上に成り立っているというふうに思っております。

防災におきましては、自助、共助、公助ということで取り組んでおりますが、それぞれ地域における地域の住民の安全を図っていただく活動、それについては一緒にやっております。具体的なことを申し上げますと、自主防災組織で私どもと一緒にハザードマップをつくって、それをもとに地域の住民に危険をお知らせいただき避難訓練をやっていただくというような取り組み、それから、より具体的にわかりやすい例といいますと、昨年度から取り組んでおります40ミリホース、地域の初期消火火災対応力を上げようということで、私どもで40ミリホースを整備しまして、地域におきましてそれで訓練をしていただき、初期消火をやって地域の火災対応力を上げていただくというような取り組みを協働でやっております。それから災害時応援協定団体、市内に限らず今61団体ございますけれども、そちらのほうとの協定に基づいて日ごろから取り組んでおりますし、消防分野におきましては、消防団活動そのものが協働と言えるのではないかと思います。消防団は当然、消防組織法で条例で設置されている市の非常勤特別職なんですけれども、皆さんほかに仕事をもちながら地域活動とともにやっていただいております。そういったものも含めまして、私ども引き



続き協働の上に成り立っていこうと思っておりますので、事業を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ほど紹介をさせていただきました、本当に実際かなりの事業で取り組まれているということを確認したわけでございます。平成27年9月の市民アンケート調査では、市民満足度が47.7%、平成22年8月の調査では49%でしたので、若干下がっておるわけですが、妙高市は39.6%、それから上越市は72.1%の満足、この上越市の場合は地の利もありますし、高いわけでございますが、糸魚川市の満足度、これ以上アップするというのは、非常に行政の皆さん一生懸命取り組んでおられるんですが、なかなか難しいと思うんですね。私は、ここはやっぱり市民の出番じゃないかなと。市民の皆さんが満足できない部分は、みずからが出て、自分の市の満足度を上げていただくというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

満足度のアップということで、ここは市民の出番というご質問ですけども、確かにおっしゃるとおりだと思います。その市民の皆さんが、満足度を上げるためにここは出番だ、そういった行動につなげてもらう必要があるんですね。そのためにやっぱりまちへの愛着意識というのが一番大事だと思います。やっぱりこの町が好きで、この町はいいなと、こういうやっぱり愛着の意識の醸成というのが大事だと思いますので、そこら辺を上げることによって、ここの市民の皆さんの出番というものを上げていければなというふうに、大変難しいんですけども、そういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、行政の職員の協働に関するアンケート調査を行っている市町村というのは結構あるんですが、糸魚川市はこの種のアンケートというのは行ったことはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

毎年度ですが、職員に対してアンケートを実施しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

他の市町村のものを見ても、行政としてはかなり先進地だと思ってる地域でも、協働を意識している職員というのは、まだ半数ぐらいなんです。この市民との協働は、非常に最初は時間がかかる。事業消化するに、非常に面倒だというようなこともあるようなんですが、実際この辺のところはどうお感じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

既に取り組んでいるものですか、活動している団体とか、母体があるという取り組みについては、比較的協働の取り組みというのは、話の持っていく方というのは理解がしやすいのかなというふうに思うんですけども、やっぱり新たな分野での協働のところ、まず施策をつくったとしても、まず相手方に理解をしてもらうというのは非常にエネルギーの要るというふうに思っております。そういったところで、やっぱりその事業とか施策を持ったときに、なぜ協働でやるんだと、そういった意義とか必要性をやっぱり丁寧に説明をする必要があるんだなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それと市民との協働が、新たな仕事として加わることによって、これを負担感というふうに取り取るようだとなかなか難しい。それから、協働を単に行政経費の削減策なんだというふうな考え方でいきますと、パートナーである市民とか民間団体はかなり下請的な意識で受け取られてしまうというようなことも非常に心配なんです。そういうことがもろに出ちゃうと失敗して、それを再構築するとなると大変なまた時間がかかるというようなことも心配をするところなんです。その辺のところはどうお感じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員のおっしゃるとおりだと思います。確かに市民へ、特に地域の皆さんに、これまで行政がやっていた仕事を持っていくと、また押しつけられたとか、そういった感を持たれると、なかなか受け入れというのは難しいというふうに思っております。やはりそこはやっぱり市と市民が一体でやるというやっぱり姿勢をしっかりと見せて、説明をしながら丁寧な対応をしていくというのが必要

であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

行政からしかける協働もあるんですが、逆に市民や各種団体が、企画した活動に行政が積極的に参加するというようなこともあるようですし、また最近、私もよく見かけておるんですが、その辺はどんな状況ですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの調査の関係になりますけども、活動に参加している職員の割合は、約6割にちょっと欠けるぐらいの数字を維持しております。また、地域行事に参加してるかどうかというアンケートも4分の3以上の職員が地域行事に参加しているといった数字が出ております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

協働が進まない理由として、一般的に挙げられているのが、目標と計画がない、流れもルールもない、推進するツールや体制がない、評価がなされていない、こういうようなことを言われているんですが、これはまさしくPDCAサイクル、これと一致するわけですね。ですから、協働の仕組みの中にこういうものを導入すれば、かなり仕組みがわかりやすくなるんじゃないかなというふうに思うんですけども、その辺は仕組みとして、今もたくさんな協働をされてるんですが、どんな形で動いてるのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

事例的にちょっと今、頭にちょっと思いつかないんですけども、確かにPDCAサイクルを回すということは、やっぱりお互いに共通の目的ですとか情報の共有をしっかりとやらなきゃいけないというふうに思います。その中でマネジメントサイクルを回して、お互いに進捗の確認を見るとか、課題を見つけ出すとか、その次に改善にどう結びつけていくかと。そういったところを考える1つの手段としては、本当にわかりやすいものかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

こういう協働に関する施策を進めるというためには、糸魚川らしい協働のあり方、この仕組みをつくる必要があるわけですが、中間組織的なところで協働活動推進委員会というようなものも、やっぱり調整機能を持った組織も必要になってくるんじゃないかと思うんですが、その辺の足場というのは確立されているのかどうかをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

協働の取り組みにつきましては、やっぱり先ほど各部長からもいろいろ事例を、お話をいただきましたけども、やっぱりさまざまなケースがあると思うんですね、多種多様ないろんなケースがあると思います。そういった多くの事例を集めて、調査研究をしていく中で、どういった機能調整を持った組織がいいのかとか、そういった部分を模索していかなきゃいけないと思います。今ここで、ちょっと即答で組織云々ということは言えませんが、多くの事例があるので、そういった事例を調査研究をしながら方向をちょっと考えていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先ほど各部の部長さん方から、それぞれの部で取り組んでいる実態をお聞きしたんですが、この行政の中にも協働の取り組みの調整など、いわゆる部がまたがったり課がまたがったりいろいろあるわけですが、協働活動推進室なるものを企画課なら企画課の中に設けるといことも、行政の機構の中でも必要になってくるんじゃないかなというような気もするんですが、その辺のお考えは、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり協働の必要性は、もう嫌というほど我々も認識いたしておるわけでありまして、その中でなかなか全市的に広まってないのも実情であります。その辺を考えたときに協働の、やはり組織をしっかりとつくって進めていけるような方向がいいのか、何で協働が必要なのかというところを考えたときに、この成熟社会において、協働の気持ちなり考え方が減ってきてることを考えたときには、やはり基本的なところが薄れてきてる。

それはなぜかと考えると、今公共施設のことを例に挙げさせていただいてるんですが、その以前のやっぱり協働生活、協働社会の中において、お祭りとか地域の行事というものがだんだん薄れてきたり、いろんなものがそういった協働の基本的なところがなくなっていくことによって今現在のような課題が大きく見えてきてるんじゃないかなと。そういうことを考えたときに今ちょっとした

例であるかもしれませんが、地域づくりプランの中で地域の皆さんが、また新たな考え方の中で今、少しコミュニティがとれ始めてきてるところがあって、そこがうまくいけば次に広がっていくのではないかなと思っております。そういった仕組みをうまく回していけるような行政の支援体制、連携体制というのが必要なのではないかなと思っておる次第でありまして、それを組織ができればいいかということちょっと何か各地域ごとにも、また各エリアごとに考え方や流れが違うものですから、そういったところもトータルでいったらどういうものがあるのかなというのを非常に考えておるわけでありまして、本当になかなか議員のご指摘の課題というのは非常に大きいものでございまして、これからの成熟社会が進めていく高齢化社会の中においては、重要なことであるわけですので、それをしっかり捉えながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、市長がおっしゃるように非常に市民活動となりますと色々な年代、立場の住民の皆さんがいらっしゃるわけで、この人たちをまとめる、コーディネートすること、この入り口でつまずきますと非常にストップして、先ほども申し上げましたが、しばらく遠のいてしまうというようなことにもなりかねないわけなので、非常にしかけるのには難しさもあると思うんですね。

1つの方法として、一番頭に浮かぶのは、この事業は、じゃあ地区の代表である区長さん方をお願いすればいいわというふうにすぐ頭に浮かぶんですが、この区長さん方も非常に交代制であって、その地区地区で実情が違うわけですね。そうすると定番の仕事だけでもかなり持っているというふうなことで、実際この町内会の実態というのも気になる場所なんです、町内会という1つの組織体については、どのように行政としてはお持ちでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

町内会の実態というところでございますけども、地域の自治組織におきましては、やっぱり人口減少ですとか高齢化といった流れの中で、やっぱり人材が不足したりとか、地域維持の活動が非常に厳しくなっているというところは聞こえております。そういったところもありますので、何とか人的な支援とか、そういったところで何とか踏ん張っていただきたいというふうに考えてるんですけども、実態としては、やはり人材不足ですとか、運営の地域活動の厳しさというところは捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、今非常にやはり高齢化社会になったり人口減少において、地域の運

営も非常に多岐にわたっておるわけでございまして、区長さんの占めるやはり職務というのは、非常に大変な状況にあるかと思っております。そういう中でさらにいろんな課題が生まれてきたときに、なかなか難しい部分があると思っております。そして、どちらかという地域の方々は、知識や経験が豊富な方々ばかりでありますし、行政は、どちらかという経験がない中で知識を持って入っていくと、なかなか今、議員少しご指摘のようにかみ合わないところが出てきて、一たびかみ合わなくなってくると、ずっとその歯車はそのままになってしまう部分がございます。そういったときにやはりもう一つその中間で、間でもって少し機能するものがあればいいのではないかなど考えるわけでありまして、それは今行っておる支援員とか協力隊とかというところを、もう少しその辺が回っていけるような機能にしていかななくてはいけないのかなど思っております、やはり第三の経験の持っておられる方や知識の持っておられる方が、間へ入っていけるような形をとっていったほうがいいのかなどというのを感じてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、行政の皆さんのお考えをお聞きする中で、やはり私も将来的には、この市民活動の専門的なノウハウを持ったスタッフを配置した、いわゆる中間的な社会的企業として市民活動センターみたいな組織があれば、非常に都合がいいのかなというふうな感じもいたしました。いずれにしましても、今後、財政的な面から見ても事業の見直し、あるいは削減もあるというふうに思うんですが、単に見直しや削減でなく、協働によって経費が削減できたり、また、持続可能な事業に変わったり、今までよりも、さらに効果が期待できるというような事業も協働というものを見据えたときに出てくるんじゃないかと思っておりますので、早急にこの協働に関する、いわゆる行動計画というものをつくっていただいて、市民にも協働の見える化を図っていただきたいなど、こういうふうに思っておりますので、こちらのほうではそのようにお願いをしておきたいと思っております。

2番目の学校と地域や産業との連携、協働の推進でありますけども、学校評議員制度に変わって、小中学校運営協議会制度、コミュニティスクールですかね、これが導入されたわけですけども、これに対する主たる目的といいますか期待というのはどこにあるんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

学校、保護者、地域が連携・協働し、当事者意識をそれぞれが持って、子供の成長を支えるという学校づくりを進めていくことと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

実際に今年度ですか、全校にこういう制度が実施をされているというふうなことなんですが、まだ間もないわけですけども、実際にこの地域の方々、教職員の方々の反応というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

地域からの支援や協力によりまして、これまで以上の一層充実した教育活動を展開されております。ご協力いただいた皆様の充実感にも結びついていると掌握しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

昨年の教育委員会の会議では、仕組みや進め方についてなかなか理解が進まない面もあるというふうな説明もあって、問題は何よりも子供たちなんですが、子供たちの反応というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

子供たちのほうは、地域に学ぶ体験的な活動等によりまして、人や事象とのつながりを深めたり、広げたりしております。これまでも糸魚川は、地域との連携・協力については結びつきが強いと考えておりますけれども、さらに地域の協力が得られるようにしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、何といたっても糸魚川市での重要な課題であります学力の向上、さらにいじめをなくしたり早く解決したりというようなことについて、このコミュニティスクールを使った取り組みで効果的な取り組みというのは期待ができるのかどうか。そこまで及ぶような制度じゃないということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

コミュニティスクールによりまして、お互い顔のわかる関係の中で学校、保護者、それから地域というものが、一緒に課題を共有して、それに対応していくというふうな取り組みになりますので、対応策を考えて実行しやすくなるというふうに考えております。安心・安全対策の取り組みについても組織の中で協議していただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、コミュニティスクールの主な3つの機能の中に、学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができるという機能があるんですけども、実際に今まで何かご意見をいただいたことってあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

各学校では、教育活動について、地域の支援や協力について意見とか提案をいただいておりますけども、春先の通学時の殺傷事件の直後等に学校運営協議会の開催された学校については、ながら見守りが実施されるようなことがあったと思います。地域の人づくりについて課題を挙げながら、子育ての目標を協議・共有していくということがありますし、学校の業務負担の様子から業務改善にご協力をいただいたりしてるというふうな学校もございます。これまで教育委員会のほうには、上がってきたご意見についてはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。単なる学校応援団から地域教育創造集団というふうに位置づけられるというふうなことでありますので、いい意味での改革につながればというふうに思います。

それから、学校応援隊の活動、これもかなり活発に行われているようでもありますけども、これはどれぐらいの方が登録されて、実績としてはどのようなことが挙げられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

学校応援隊であります、地域のボランティアの方々の活動実績としまして、事務報告書に記載のとおりであります、平成30年度では、延べ2万4,179人となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今年度予算を見ますと、コミュニティスクール推進事業の予算が307万4,000円となっておりますね。この内容的にはどんな経費で、事業の中身はどのようなのかと。実際に5カ月経過しまし



たけども、今年度、特に力を入れている内容といいますか紹介するようなことがありましたら、お願いしたいと思うんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

今年度から市内の全ての小中特別支援学校がコミュニティスクールを始めておりますので、それにかかわる委員の報酬、それから交通費等の経費が主なものになっております。今年度、先ほど述べましたように春先の事件・事故等もございましたので、安心・安全な通学についての協議等をお願いしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

糸魚川市におきましては、もともと地域と学校とのつながりが非常に強くて、地域の皆さんから学校を助けていただいているなというふうに感じています。そういった中で、今、児童の安全・安心対策等について重点的にお願いしているということなんですけども、地域によっては防犯パトロールですとか、見守り活動が一生懸命やられている地区があります。そういった中で実際やっておられる方の状況を聞きますと、例えば健康のために、そういった児童と一緒に登下校をするといったような方がおられて、そういった形で協力いただけるとなると、お互いウイン・ウインの関係でいい協働の形とれるんじゃないかなというふうに思っています。こういったことを学校運営協議会の全体の会議があるんですけども、そういった中で事例を紹介して、無理のない協働を取り入れていければいいなというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるように、最近、学校便りが毎月発行されてるところが多いと思うんですが、非常に中身が変わってきたと。地域とのかかわりのあるような内容が、かなり紹介されているのを見ておりますので、非常に効果があらわれてきているんじゃないかなというふうに思っているところであります。

それから、学校園庭に関係するところの地域愛育成事業、こちらのほうが、予算が516万円ということなんですけども、こちらのほうは内容的にはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

地域人材と学校ニーズをマッチングさせるコーディネーターの活動謝金と、地域ボランティアの交通費が主な経費であります。そのほか広報紙の印刷、保険料などでございます。今年度は、特にコミュニティスクールとの連動に心がけておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

コミュニティスクールについても、それから学校応援隊についても非常に学校とのかかわりが、地域と関係してきておるこの活動を見ますと、先進地では、学校と地域を結ぶ場として学校内にコミュニティハウスを設置したという、非常に先進的な取り組みをしているところもあるんですが、それを考えた場合、糸魚川市でもコミュニティハウスというようなものをきちっと整備しなくても、学校の中に空き教室があるということであれば、逆にコミュニティルームとして子供たちとの交流の支援の拠点というふうなことで、活用する取り組みというのはいかならないものかなというふうに感ずるところなんです、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

コミュニティハウスにつきましては、各学校の事情とか状況によっても違うわけでありまして、学校と地域との関係を深める1つの方法として、貴重なご提言として受けとめさせていただきたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ぜひご検討いただきたいなというふうに思っております。

それから、平成28年度からだったと思いますが、高校の魅力づくりについて、高等学校魅力づくり支援事業として、本年度で4年目ですね。今年度は各校に50万円を限度に、補助金を支出しているわけですが、この事業について確認のためご説明いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問の事業につきましては、ご質問のとおり平成28年度から市内3高校の魅力を高めることを目的として創設した補助制度でございます。今現在、学校あるいは保護者会等と連携して取り組んでおりまして、ご質問のとおり今年度から、当初は40万円でスタートした事業でございますが、今年度から上限額を50万円と増額しまして、さらなる魅力化に取り組んでいるところでございま

す。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

こちらほうの事業も、私、徐々に効果があらわれてきてるなど。いわゆる新聞紙上いろんなところでも紹介されたりしておりますので、何といたっても高校と市が身近になったというふうな感じを抱いてるんですが、この辺は距離感というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

この補助制度は、平成27年に県の教育委員会が策定した県立高校の将来構想というものがございまして、それを端緒につくった制度でございます。この創設によりまして、各高校において新たな取り組みが生まれまして、また徐々にではありますが、そういった距離感も縮まってきてるのではないかな。また、機運もそれに応じて高まってきてるのではないかなという感じがしておりますので、一定の効果があつたというふうには捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ほど課長さんがおっしゃった高校再編の危機感もあつてということなんですが、こちらのほうは、現実どういうふうに受けとめていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

県のほうは、県立高校の将来構想というものを平成27年に10年間をスパンで策定いたしました。後は、県立高校の整備構想というものを3年のローリングで今現在つくっております。新聞でも報道されたと思っておりますが、来年度の糸魚川高校のクラス数が、今現在5つあるところが4クラスに減るといふようなところで、今現在計画はなっております。白嶺高校は3クラス、海洋高校は2クラスと、市内で10クラスあつたものが9クラスに減るといふ計画でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、市長は平成30年度の第1回糸魚川市総合教育会議、こちらで高校は、高校生が魅力を感じられるような学校にしていかななくてはならない。それは地域課題とどうリンクしていくかということだと。いかに生徒たちが、自分たちの将来に対し魅力を感じるかを、明確に各校の特徴として出していくことが必要ではないかと言っとるわけでありますが、私もまさしくそのとおりだと思っておりますが、市長、その考えを反映する方向で、現在動き出しているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今その方向で、私は動いていると捉えております。やはり少子化の中において、この地域の3つの高校というのは、やっぱりしっかり機能していくことが若者定着や、またこの糸魚川市の持続可能なまちになっていくんだらうということをしっかり捉えていきたいと思っております、まだまだスタートしたばかりであるわけでございますが、早目にスピード感を持ってやらなくてははいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、私期待をしているところで、今年度はコンソーシアムの構築による高校を核とした地域人材育成事業、これに取り組みたいということであったわけで、産学官の協働によるコンソーシアムの創造、こちらに関してはどのような形に持っていこうとしているのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

本事業のコンソーシアムの構築に関しましては、当初、まず協働体制、いわゆるコンソーシアムを構築して事業に取り組むというふうな予定にしておりましたが、文部科学省の評価委員も努められた大正大学の浦崎教授からの助言、また、先進地の状況を見る中で、まず学校、地域を初めとした事業にかかわる全ての主体が、方向性をしっかり共有すること、また皆さんが自分事としてこの事業を捉えていきたいということが大切であるというふうな考えのもと、あえて今、現段階では組織化せずに各学校において企業等と協力を得ながら、各学校それぞれの魅力づくり、人材育成に取り組んでいるところであります。今後、各学校で積み重ねました協働、実践の成果、あるいは課題を産学官で深く共有する、見える化する対話と交流の場を設ける予定にしております。その事業の理解者、実践者をふやしながら、その対話と交流の場が糸魚川版のコンソーシアム、協働体制となるようにスピード感を持って進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

現段階の状況というのは、もう今のお話でわかったんですけども、いわゆる究極、糸魚川市でのコンソーシアムの理想形というのは、いつごろまでに確立させたいというふうに思っておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今現在、学校で徐々にではありますが、魅力化に向けて取り組みを行っております。そういった取り組みの経過、あるいは成果を早急にまとめまして、産学官が寄っていただいて、その場を設けるということですので、年内中には設けたいなというふうなことを思っておりますが、その場には、やはり学校もそれなりの成果を持って出てきていただかなければいけないので、早急に調整をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それからもう一つ、学校で学ぶ理論と企業で学ぶ実践を結びつけた、いわゆる糸魚川版のデュアルシステム、これも数年前から動いておるんですが、現在どのような形で活用されているのか、ちょっと紹介をしていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご存じのとおり海洋高校におきましては、課題研究、総合実習の時間等に企業等と連携しまして生徒の研究活動の場として、産学官の連携事業として機能しておりますし、また、白嶺高校におきましては、今現段階では総合的な学習の時間に企業でインターンシップを行っておりますけれども、今後、企業内の実習をふやすなどデュアルシステム、糸魚川版デュアルシステムの構築に向けて検討を進めているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

コンソーシアムもデュアルシステムも協働としての機能で、手法であるわけですから、その延長線上に目的があるわけですね。この効果が、成果として地元就職とか人口対策に結びつけたいところなんですけど、この成果指標といったものは立てて臨んでいるのかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問のとおり人口減少対策ということで、高校を出て進学をして帰ってきてくださる数がふえるということが、究極の目的だというふうに思っていますが、ただ、文部科学省のこの事業というのは、あくまでも教育改革ということで、高校生が今、社会に出て必要な力を地域と一緒に協働、地域も本気になって高校生とつき合う中で、高校生の気持ちが変わって行って楽しくなって、それで結果的に糸魚川に帰ってきてもらおうと。あくまでも教育改革というところが一義的な目的になっておりますが、私ども究極の人口減少対策というものをにらみながら、事業に取り組んでまいりたいというふうに思っております。特に指標というものは、今現段階ではこれというものは今持っておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

中学3年生のアンケート、これ見ますと糸魚川市が住みよいと言ってる生徒が64.4%、住み続けたいかというふうな問いには39.4%ということですね。いわゆる住みよいけども住めないという、このギャップを少しでも減らすためにも、この後も学校、地域、産業、連携して協働の取り組みを強化しなきゃいけないんじゃないかなというふうに私も思っておりますので、引き続き努力をしていただきたいというふうに思っております。

次に、3番目の市道の美化に関する協働活動の提案について伺いたいと思うんですけども、この問題を取り上げたのは、数年前から協働の取り組みで何とかできないものかなというふうに思っていたからであります。この問題を提起しながらも時間がたっておるわけですが、依然として国道、県道、市道ともに雑草やごみが見受けられるわけですね。これが数日、数カ月、数年といった放置とも言えるような実態もあります。特に国道なんかは、数年来そのままというようなひどい状況も見受けられるわけなんです。これはもう管理者任せでは、もうまずいというふうに感じるわけなんで、まずは市の道路だけでも何らかの具体的なアクションを起こす必要があるんじゃないかなというふうに思って質問をさせていただきます。

総合計画では、市道等の整備と維持管理のところ、協働の取り組みとして地域住民は積極的に道路の美化活動等に取り組みます。行政は、安全で利用しやすい道路整備を推進するとともに、地域住民が行う道路の美化活動を支援しますとしておりますけども、実際、どのような取り組み状況なのか、まずお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

現在、自治会ですとか各種団体、企業の皆様からボランティア活動で市道の草刈りですとか、側溝ですとか道路の清掃等を行っていただいております。糸魚川市では、環境美化パートナー制度というのがございまして、それぞれ美化活動を行っていただく団体等にごみ袋ですとか軍手等を支給貸与をしているという制度がございまして、今年度の状況ですと14の団体から、道路だけではなくて河川ですとか海岸とかそういう美化活動にご協力をいただいておりますというような実情でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

少なからず取り組みをされているということなんですが、総合計画では、きちっと市民にお願いしたいというふうにしておるわけですから、市民全体に行き渡るようなアクションを起こすべきじゃないかなというふうには私は思ってるんですけども、一挙にいかなくても方法は幾らでもあると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

総合計画にあるので、それに取り組まなければいけない。そのとおりでございます。

ただ、なかなか私どもも今、建設課の場合には、道路を管理することが私どもの義務というか仕事でございまして、その立場のほうから地元のほうになかなか頼みづらいという正直な心苦しさ的なものはございます。

ただ、今現在そういうことをやっていただいとる団体・地区というのもございますので、例えばそういうところの例を取り上げて、周知して広げていくというような、そういう取り組みというのは糸魚川市としてもできるんじゃないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

予算書を見ますと、道路維持管理費として毎年度1,500万円ほど使われているわけですが、これは主にどのような使われ方をしてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市道の草刈りですとか街路樹の剪定、枝処理、路面ですとか側溝の清掃、あと地下道とかそういう施設の管理というものもございまして、あと中にはアンダーパス等で大雨のときの緊急対応とか、さまざまなものを含めたもので予算が構成されております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この市道の総延長を考えたときに、かなり満足する道路の維持管理をするとすると、毎年どれぐらいの予算措置が必要だというふうに考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

かなり満足する維持管理というご質問で、ちょっと難しいところなんですけど、やはり私どもの維持管理としては、まずは安全面というところが重きを置きます。その上で除草ですとか清掃、道路美化までも備えた維持管理というふうになりますと、それを行政のほうでやるということになりますと、具体的な金額というのは今1,500万とかそういう数字が出ておりますが、それが幾らであれば満足ができるかというところは、なかなか難しいと思います。

ただ、具体的な金額は今言いませんが、例えば管理しておる延長あたりの管理費の延長あたりの金額で見ますと、県はかなりの金額を、糸魚川市よりかなり多くの金額というものを道路維持管理のほうにはかけておるかと思っております。単純な比較はできないですが、そういう状況もございまして。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

課長おっしゃるように、まずは美観ばかりじゃなくて、むしろ道路の安全というふうなことですよね。じゃあこちらのほうの土砂やごみなどによって、スリップ事故なり実際に事故に結びついた実態というのは、管理上の問題からというようなのもあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

残念ながら毎年そういう事故というのは発生しておりますので、近い例でございまして、道路の側



から伸びた枝によって車のボディを傷つけてしまったとか、道路から民地のほうに入る境界の部分に側溝がありまして、その側溝にグレーチングぶた、目皿のようなふたがかかっているものが、若干がたついておって、そこを車が通過したときにはね上がって車を損傷させたとか、そういう事例というのは、件数は多くないですが、コンスタントにといいますか毎年発生してまいっております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

県道、国道も同じくあるわけですが、先ほどの課長の説明だと、県のほうは予算を市よりも持っておるというふうなことなんですが、県の状況を見てみますと、うるおいの郷土（ふるさと）はぐくみ事業ですか、これで県道とか河川の美化に協力していただける団体を登録していると。糸魚川地域振興局管内をちなみに見ると、8団体登録されてるというんですけども、この辺の情報というのは入っておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

事細かな具体的な作業を、実際に見させていただいて確認しとるところまでは把握をしておりますが、能生地域で2団体、糸魚川地域で6団体というものが登録されておまして、道路や河川の美化活動、清掃活動等にご協力をいただいておりますということは把握をしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

国道の状況、ここには協働の取り組みというのは何かあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

国交省のほうでは、同じように地域の皆様ですとか企業の皆様に道路の美化活動に参加していただいて、快適な道づくりを進めるといったことを目的にしまして、ボランティアサポートプログラムというものが用意をされておまして、糸魚川市内で10の団体が登録されておまして、道路の美化活動等を行っていただいておりますという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私は、平成22年の9月の議会で、市民と行政が協働で進める新しいまちの美化プログラムとしてアダプトプログラム、この制度を提案をさせていただいたことがあるんですけども、ことしの春のデータを見てみますと、実施自治体数が423自治体で、プログラム数が約570プログラム、参加団体数は4万5,000団体で、活動者数が250万人と言われてますね。9年前に比べて約2.5倍となってるわけです。9年前の提案時には、検討を約束していただいていたんですが、検討内容と合わせて、この制度について若干ご説明をいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、アダプトプログラムということ、これの説明なんですけど、このプログラムというのは、もともとはアメリカを起源としておりまして、市民ですとか団体の方が行っていただく公共の場の美化活動というものを行政が支援するような形なんですけど、それをちゃんと協定によってお互いが確認をして、そういう活動について公表・周知を図ると。それぞれ美化だけではなくて、地域の一体感とかそういう副次的な効果の期待できる活動であるということが定義されております。

過去にも議員のほうからは、何回かこのご質問をいただいております、その都度、理事者、担当課長のほうから前向きに取り組むような答弁のほうもしております、現在の、先ほど私申しました環境美化パートナー制度ということで、糸魚川市のほうで用意しておるところに、数は14団体ですが、活動いただいておりますというの、それらの取り組みの結果ではないかというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるように完全なるアダプトプログラムでないかもしれませんが、類似するような制度をつくっていただいているということでもあります。今回は、もっと踏み込んで、全市的な取り組みに、行政と市民の協働による、市民ができる範囲の市道の清掃活動に特化して、全市的な取り組みとして提案をさせていただきたいというふうに考えておるんですが、その辺を踏み込んだ対応っていかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

市長の答弁にもございましたが、現状ではさまざまな地区、多くの地区の皆様からご要望をいただいております。糸魚川市はその要望に応えきれていないというのが現状でございます。それらのことですか、また先ほど私、アダプトプログラムの効果・成果みたいな答弁をさせていただいたんですが、市民の皆様へボランティアでそういうことをお願いするといったなかなか難しさというものも感じておるところでございます。どうやったら市民の皆様にご理解をいただけるか、そのようなご提言というのがあれば、ぜひありがたく頂戴をしたいと思っておりますので、またご指導よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この協働活動にもいろいろあって、条件が整わないとなかなか取り組めないものもあるわけですが、その点では、市道の清掃・美化、これ非常にわかりやすいと思うんですね。ほぼ誰でも、いつでも、どこでもできるというふうなことでありますし、協働活動のモデルにもなると思うんですね。私はそんなに心配することなく、反対する人はいないと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今、現状におきましても先ほどのパートナー制度に登録されておらんくても、実際、個人単位ですとか地区単位でとか、お年寄りの集まり単位で道路の清掃・美化、また広場の清掃・美化等にご協力、ボランティアでやっていただいております。それらを例えば取り組みというのをモデル地区とかモデル路線とかモデル広場みたいな形で取り上げて、そういうことを周知していくと。協働活動というものを周知して、実際やっていただいとるやつを多く知っていただくということが、この先広く展開していくためには必要なことなんじゃないかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるように行政から地区の方々に対してなかなかお願いしづらい地区もあるというふうなことも聞いとるわけですが、快くこれを受けとめてくださる地域というののもかなり、逆にそちらのほうが多いんじゃないかなと私は受けとめております。

しからばじゃあどういう方法で進めるかというふうなことなんですが、これだというふうなもの

も持ち合わせないで一般質問してるわけですけども、先般、私、8月の下旬でしたけども、ある地区で区長会がありまして、そこで実は今お話しさせていただいてる市道の美化について協力をお願いをさせていただきました。ここの地区は、先頭を切って地域ぐるみでこの美化活動に対応していただきたいというふうなお話をさせていただきました。そうしたところ、市道に関するいろんなお話、いわゆる市道にかかっている木とか倒木みたいなものとか、そういうようなことの場合はどうすればいいとか、しばし話題になりました。感触としましては、これはやはりお話しすれば対応していただけるだろうというふうな感触を得ておりますので、ぜひとも課長さんから行って、また道づけはしたいと思っておりますけども、行っていろんなお話をすることでモデルになるような地区にしていけたらなというふうに思いを持っておりますので、そんなふうに感じてるんですが、そのような流れになりましたらよろしくお願ひしたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

どうしても私ども、今までは地域からお願いが来るとか、叱られるとか、そういうふうなことが多かったもんですから、なかなかそういう機会というのが、今までそういう経験がなかったもんですから、やっていただいとる前向きな地区の方の声を聞かせていただけます貴重な機会であるというふうに捉えさせていただきまして、当然、関係する課も複数ございますので、その課とも連携を図りながら、ぜひ対応させていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

その地区は、既に思い思いに自宅の前とか周辺の清掃をやられておる地域でありまして、地区みんなで、地区ぐるみで取り組むというふうなことになるれば、健康を害してる方とかひとり暮らしの皆さんのところは、逆にそういう形をつくっていただければ気兼ねなく協力できる形にもなろうかと思うんですが、そうでないとなかなか健康を害してるお宅とか、おひとり暮らしのところへ行って、市道とはいえ掃除してると何かやりづらい面もあるわけなんで、その辺やっぱり全市ぐるみでできるような形をすれば、協力関係もきちっとできるんじゃないかなというふうに思っております。

総合計画にはっきり取り組むというふうにしてることからも、私は進めなければならないと思っております。地域の皆さんによく説明をするということ、これはやはり市の広報とかおしらせで丁寧呼びかけていただきたいと思ひます。

○議長（中村 実君）

時間になりましたので。

○17番（渡辺重雄君）

よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

15時20分まで、暫時休憩いたします。

〈午後3時07分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、行政改革について。

(1) AIによる経営分析とその活用について。

① AIの運用で「見える化」を図り、経営改善をした老舗食堂の報告がある。そこで、権現荘やスキー場などの収益事業でAIを導入し、経営改善を行う考えはあるか。

② 税収アップの視点から、市内中小企業に対して、AIによる経営分析導入支援や既存の各種補助制度の周知に取り組む考えはあるか。

(2) 外部監査の導入について。

外部監査の実施を求めて久しく、その間、職員の不手際、怠慢、認識不足による不祥事が絶えない。内部監査と並行して外部監査を行い、会計と事業内容の透明性を図る考えはあるか。

(3) 市民の満足度や成果を重視した行政の固定費改革について。

① 庁舎のエアコンや照明について市民の視点で行っているか。

② 各施設のエアコンの温度設定と職員の業務の効率化の検証を行う考えはあるか。

③ 公用車の法定点検率とドライブレコーダーの設置率は、どうなっているか。

④ 正職員と臨時職員の働き方改革として現在、何を行っているか。

2、観光誘客の手法改革について。

(1) アニメ、漫画、ゲームを利活用した取り組みについて。

① 株式会社ポケモンが行う「ポケふた」、これはマンホールのふたであります。ポケふたに参加する考えはあるか。

- ② アプリゲーム「ポケモンGO」による世界ジオパーク（ジオサイト）の連携と駅北エリアでの復興企画として連携を行う考えはあるか。
  - ③ 昨年の「宝石の国」フォッサマグナミュージアム特別展の成功を受けて、漫画「宝石の国」との連携したイベント開催を考えているか。
  - ④ アプリゲーム「一血卍傑（イチバンケツ）」に奴奈川姫の息子とされる建御名方（たけみなかた）の神が登場していることを生かし、コラボ企画を検討する考えはあるか。
  - ⑤ 市内を走る鉄道車両や路線バスと連携し、キャラクターラッピングや改造車両を展開する考えはあるか。
- (2) 糸魚川市全体で行う観光戦略について。
- ① 糸魚川のおいしいものの食べさせ方の工夫について、生産者・飲食店・観光業者のプロジェクトとして検討する考えはあるか。
  - ② 夜間型と早朝型のイベントの開催について、日帰りでは楽しむことができない通年企画を検討する考えはあるか。

### 3、安全対策について。

- (1) 小中学生の登下校における安全性の確保について。
- ① イノシシやクマなど危険動物の対策は、どうなっているか。
  - ② 不審者の声かけや連れ去りの対策は、どうなっているか。
  - ③ 通学路等の交通事故防止対策は、どうなっているか。
- (2) 防犯カメラの設置について。
- ① 自治会等のカメラ設置補助の申請状況は、どうなっているか。
  - ② 小中学校のカメラ設置の進捗状況は、どうなっているか。
  - ③ 市内幼稚園・保育園への設置は考えているか。
- (3) 高齢者の自動車運転事故の防止策について。
- ① 公共施設に隣接する駐車場において、ローラー付車どめを設置すべきと考えるが、採用する考えはあるか。
  - ② あおり運転などの事故抑止や事故の際の証拠画像となることから、ドライブレコーダー設置推進とその支援を考えているか。
- (4) 動物愛護と避難所の安全対策について。
- ① 狂犬病予防注射未実施の方への指導は、どのように行っているか。
  - ② 市民の安全のため、市内の飼育頭数の把握を行う考えはあるか。これは特に猫と、犬は管理されていますが、猫等を含めての把握であります。
  - ③ ペット同行避難の訓練の計画はあるか。

### 4、スポーツ振興について。

- (1) 「生き生きスポーツ都市宣言」について。
- ① 平成20年3月19日に告示されてから10年が経過している。当初目的の達成度と取り組みの成果をどのように考えているか。
  - ② 少子高齢社会の中でスポーツ都市宣言を推進するためには、市や県、学校や企業も含めた総合的な相談窓口が必要であるが、どのように考えているか。

(2) スポーツ施設や公園等の利活用と整備について。

少子高齢社会にあつて施設の維持管理は大きな課題であります。そのため、目的外使用も含め、積極的にスポーツ振興を図るべきと考えます。

- ① 陸上競技場3種公認の継続と陸上競技以外の使用への工夫はあるか。
- ② 美山野球場の両翼の拡大とそれによる大会誘致や合宿誘致の推進は、どのように考えているか。
- ③ 廃校になったプールの活用方法は、どうなっているか。
- ④ オリンピック種目になった、新しく競技種目となった競技への振興策はあるか。
- ⑤ 県内でプロリーグのある競技への振興策はあるか。
- ⑥ 2つのスキー場の通年活用に向けて、全国から活用方法のアイデアを募集する考えはあるか。

5、少子高齢社会を乗り切る政策について。

(1) 今年度の路線バスの運用について。

- ① 自動車を運転しない市民からの意見や困り事は、把握しているか。
- ② 中学生や高校生の意見や困り事は、把握しているか。
- ③ 現時点で乗り継ぎ時間の調整や増便の改善を行うものはあるか。
- ④ デマンド方式のタクシーやバスへの転換の考えはあるか。
- ⑤ 今後、バス利用者の声を聞き取りする計画はあるか。

(2) 難病や重度障害を持つ子供世帯への支援について。

- ① 市内で前例のない病気等の対応や支援方法は、どうなっているか。
- ② 在宅療養のためのリフォームや専用ベッドやバギーカー等の支援は、どうなっているか。
- ③ 定住人口策として集中治療室がある医療機関への通院支援などの検討が必要と思うが、どのように考えているか。

(3) ストレッチャーのある福祉車両の拡充について。

自力で動けない高齢者等のためにストレッチャー付車両が必要である。医療、福祉、介護などの施設などから急な入退院がある場合に必要となるが、関係機関とタクシー会社への拡充支援の考えはあるか。

6、糸魚川市のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みについて。

糸魚川市はSDGsと世界ジオパークの共通性を市民に周知してきた。SDGsでは、「誰一人取り残さない」という崇高な理念を掲げ、169のターゲットの、実に90%以上は、人権と労働基準に関連している。また、SDGsの達成に向けては、各分野における現状のやり方の延長線上ではなく、根本を見直すような「変革」や「イノベーション」が必要となる。

SDGsの目標やターゲットはさまざまあるが、糸魚川市でも既に自然エネルギーの導入、グリーンカーテンの実施、ごみの分別、20・10・0運動として食品ロス削減の活動などの形で、SDGsに関連した施策に取り組んでいる。今後は17の目標ごとに「SDGsのわが町ごと化」することが、第一歩となる。地域にふさわしい評価指標を設けることが重要となり、数字としての「見える化」したローカライズ指標と評価できる仕組みをつくる必要がある。糸魚川市の目標設定や具体的な取り組みの考えや方針を伺う。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、その分析内容や有効性等を研究した上で活用について検討してまいります。

2つ目につきましては、商工会議所や商工会などでは、補助制度の周知を含めIT導入の支援を行っておりますが、AIの活用と普及は、相応の時間が必要であると考えております。

2点目につきましては、内部監査の充実とともに外部診断の導入の検討を始め、昨年末から情報セキュリティ監査を外部による監査委員を活用し、一部実施いたしているところであります。内部監査及び外部診断を活用し、引き続き適正な業務執行に努めてまいります。

3点目の1つ目と2つ目につきましては、地球温暖化や経費削減の観点から、基準を設けて運用しているところでありますが、毎年度実施してる来庁者へのアンケート等により、意見をお聞きする中で、施設内環境の充実に努めてまいります。

3つ目の法定点検率につきましては、100%であります。また、ドライブレコーダーの設置率につきましては、現在73%となっておりますが、年度末までには100%となる見込みであります。

4つ目につきましては、ノー残業デーのパソコン使用制限や朝礼等での業務スケジュールの共有化を行っているほか、タイムマネジメントなどの生産性向上研修を行っており、今後も働き方改革につながる取り組みを行ってまいります。

2番目の1点目につきましては、アニメや漫画など若い世代や共通の趣味を持ったお客様をターゲットとした観光誘客は、効果的であると考えており、28年にポケモンGOと市内ジオサイトを紹介するホームページを公開し、観光誘客に活用しているところであり、それぞれ費用対効果を踏まえて検討してまいります。

2点目の1つ目につきましては、日本版DMO登録法人である観光協会で関係者を巻き込み、進める必要があると考えており、市も一緒になって取り組んでまいります。

2つ目につきましては、現在実施している伝統芸能や各種イベントを宿泊につなげるよう検討してまいります。

3番目の1点目につきましては、野生動物や不審者の目撃情報等を各学校、保護者、地域と共有し、集団下校や地域への見守りの要請を行うとともに、各学校において交通安全教室や不審者対応等の避難訓練を実施しております。

また、交通安全指導や通学路の安全点検を行い、関係機関と連携して安全確保を努めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、現在、申請件数は2件となっております。

2つ目と3つ目につきましては、個人情報保護等の課題はありますが、設置に向けて検討いたしております。



3点目の1つ目につきましては、効果的な研究をまいります。

2つ目につきましては、交通安全及び防犯対策の面においても有効であり、検討を進めております。

4点目の1つ目につきましては、接種が確認できない飼い主は、文書で指導をいたしております。

2つ目につきましては、犬の登録件数は把握しておりますが、猫なども含めたペット全体の飼育頭数は把握いたしておりません。

3つ目につきましては、今後、総合防災訓練などに合わせ、実施を点検してまいります。

4番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

5番目の1点目の1つ目と5つ目につきましては、路線バス再編の計画策定当初より、地域との意見交換などの機会を通じて把握に努めております。利用者の声を広く聞き、利便性向上につなげていくことが大切であり、今後も継続してまいります。

2つ目につきましては、中学生保護者への説明会や中学校、高校への訪問により、ご意見を伺っており、特に緊急性を有する問題は生じてないものと捉えております。

3つ目につきましては、地域や利用者の意見を聞き、運行事業者と改善について検討を進めております。

4つ目につきましては、まずは今ある路線バスの利便性向上と効率化を優先していくことが重要と考えております。

2点目の1つ目につきましては、難病の場合は県が主体であり、市と連携して対応しております。

2つ目につきましては、障害の等級などにより、各種助成制度がございます。

3つ目につきましては、障害者に対する交通費助成を行っておりますが、助成内容の拡充について現在検討いたしております。

3点目につきましては、関係機関と意見交換した上で必要に応じて支援策を検討してまいります。

6番目につきましては、市で取り組んでいるもののほとんどがSDGsの17のゴールに通じる取り組みであると考えており、第2次総合計画の中でも目標値を設定し、取り組んでいるところがあります。SDGsの理念や考え方を意識して取り組むことを基本とし、職員や市民に向けての周知に努め、行動につなげていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

保坂議員の4番目のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、実施計画の施策指標などを見ても、年齢や目的に応じてスポーツに親しみ、スポーツが持つ意義が浸透してきていると認識しております。

2つ目につきましては、総合的相談窓口は、行政が担うものと認識しております。

2点目の1つ目につきましては、陸上競技場の公認は、次の審査に向けて検討してまいります。

また、サッカーやゲートボールの試合など管理に支障のない範囲で使用しております。

2つ目につきましては、美山球場の両翼について、現時点では外野の拡張は考えておりませんが、今後も引き続き大会、合宿の誘致に取り組んでまいります。

3つ目につきましては、プールとしての活用は考えておりません。

4つ目につきましては、特別な策は考えておりませんが、初心者向けの教室開催などを行ってまいります。

5つ目は、夢づくりスポーツ教室の開催や試合招致事業などにおいて、支援・協力させていただいております。

6つ目につきましては、現時点では、全国からのアイデア募集は考えておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

まず、AIによる経営分析についてであります。具体的に名前を挙げてもよろしいかと思しますので、老舗食堂とは、有限会社ゑびやといいます。会社は、2000年の歴史を持つ伊勢神宮、三重県伊勢市の鳥居近くでゑびや大食堂とゑびや商店を経営しております。経営改善の結論からいいますと、5年ほど前から従業員は変わらないのに売り上げは4倍、利益率は10倍になっているということであります。

糸魚川市では、行政改革というと事業の縮小や統廃合、また事業廃止、人件費の削減、臨時職員の採用、また外部委託事業の民営化や節電などが中心と思っています。しかし、これからは、単純なスリム化から本質的な効果を求める行政改革を行うべきだと思います。

そこで、先ほど研究して検討するという回答をいただいたんですが、もう少し具体的なAIに対しての市の取り組み方というものを教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

商工観光課の観点から、スキー場等につきましてはのと、あと中小企業ですとか小規模事業者に対してのご回答を申し上げます。

AIにつきましては、経営分析のほか経営改善等、さまざまなメニューといいますか内容があるというふうに理解しております、それを使いこなすためのデータの収集等も必要でございます。それらを踏まえまして、今後、検討してまいりたいということでございます。

あと中小企業ですとか、小規模事業者につきましては、まだこのAIによる経営分析、改善というところまでには相当の時間がかかるだろうということございまして、日本商工会議所の中でも今のところ経営分析にAIを取り入れる動きはなく、当面は、安価で便利なITサービスの普及と活用を推進するというところで書かれております。

いずれにいたしましても、今後有効な手段であることは間違いございませんので、状況を見きわ

めながら対応しまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ちょっと時間をかけてというような言い方されてるんですけども、なぜ私、AIにこだわるかというのは、今の子供たちが就職していくときにいろんな社会背景が変わっていくと思ってるんですね。だから、いち早くこういったものを行政や地元の中小企業が必死になって研究・勉強して、そのいいところを生かしていく。それによって、今、人手不足という背景があるわけですよ。それをいかに効率よくこの事業をしていったり、事業の継続を図れる工夫がないかというところを見つけるための導入なんで、余りのんきに考えていると逆に意味がないというか、そういうスタイルなんですけども、その辺いかながなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、議員からお話のありました老舗食堂の例によりますと、AIによる来客の予想をもとに作業の効率化ですとか食品ロスの削減ですとか、従業員の負担軽減等が解消されたというふうにお聞きしております。そういう何ていいますか早急にこういうものに取り組むことによって対応できるものもありましようし、また、その内容を見きわめながら行かなければならないものもあるというふうに考えておりますので、その辺は少し勉強をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

今いろいろ調べると、ほかにもいろんな養蜂ですね、蜂蜜で、IoTを使ったりAIを使ったりして成功してる例だとか、あと何かAIを活用したソリューションの自動化という、何か大学が行ってるものとか、いろんな今取り組みが出てきていると聞いております。今、全くやらないと言ってるわけじゃないので前向きに捉えてますけども、ぜひ何ていうのかな、将来の子供たちがこの地域で働ける環境を整える意味でも、そういったものをぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

もう一点、さっきの中小企業の補助制度の関係なんですけど、昨年、公明党で100万人アンケートというものを全国的に展開しました。そのときに中小企業の皆さんのところへ行くと、やっぱり制度があっても知らなかったとか、申請手続きがやはり面倒ぼく感じたのでやらなかったとか、そういう声がありますもんですから、お互いに忙しい中ではありますが、そういういい制度があるということをご周知を徹底していただきたいと思います。その辺いかながなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

I T関係の補助金につきましては、経産省ですとか、あと新潟県、あと新潟産業創造機構等でのメニューがございます。議員おっしゃるように、募集期間が決まっておったりしておりますので、こういうものも積極的に今の時代に合わせて、積極的に周知をしていく必要があるというふうに考えておりますし、商工会議所、商工会とも一緒になって取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

次に、外部監査の導入のところではありますが、先ほどの答弁でも情報セキュリティについて外部監査を導入したとありますが、私からするとイメージ的に会計であるとか、事業内容のことが気になっております。特に事業内容として、設計費の積み上げですね。根知の診療所、須沢のごみ処理場、市民プール、あと駅北広場の設計、事業費のあり方、こういったものがやっぱりいろいろ行政側の説明を受けていると非常にアバウトに感じてしまうものですから、こういった積み上げの仕方だとか、ほかの施設との比較対照の仕方であるとか、そういったものがもう少し議会にも、また市民にもわかりやすい説明ができるために、そういう意味で外部の目を見ていただくという観点なんですけど、その辺の外部監査の考え方がなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本総務部長。〔総務部長 山本将世君登壇〕

○総務部長（山本将世君）

お答えいたします。

外部監査につきましては、基本的には県または政令市が義務づけられておりまして、私ども市の部分につきましては、努力義務的な部分の扱いになるところでございます。

自治法が定めております外部監査につきましては、包括的な外部監査と個別の外部監査というような形がございまして、今、議員がおっしゃった部分については、個別的な外部監査、目的を持ったところのポイントでの外部監査ということになるかと思えます。そういった部分につきましては、少しやはり専門職が行う部分の中で、今実施しているところの状況を見ますとやはりお願いする部分の、経費的に大きな金額がかかっている部分ございまして、その辺をもう少し確認いたしませんと、直ちにとすることは難しいなというふうには思っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

私からしますと、市の職員の不祥事において怠慢と不手際と認識不足の解消に向けて、今まで職員研修によって改善を行うという回答をいただけてきました。

ただ、なかなか改善されない実態もございます。意図的なミスは絶対に許されませんが、多くの場合は、きょうほかの議員の答弁にありました職員の異動や経験年数、あと繁忙期、あと家庭事情など、さまざまないろんな要素が結びついて、ミスとか失敗をするものと思っております。

そこで、定期的に外部によるチェックが入ることによって緊張感を持たせる。そういう意味では、私は効果があるので、経費がかかるというとなかなかこっちも言いづらいんですが、これまでのいろんな経過を見ると、一度、二度ぐらいはやっぱりやるべきではないかなと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

経費のかかる部分というのは別にしても、やはり外の目で私どもの業務を見ていただくということとは非常に大切だと思っております。今、地域の企業に学ぶという取り組みをしております、地域の企業あるいは金融機関等のお話を聞く中で、あるいは見せていただく中でどうやってやっていけばいいか、また、それを一歩進めて、来ていただいて私どもの業務を見てもらうと。外から来ることによって、また緊張感というものも生まれてこようかと思っておりますので、その中で先ほど市長が申し上げた外部による診断、外部による見ていただくといった活動を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ積極的にお願いいたします。

次に、固定費改革のところでお願いたします。今回、エアコンのことで節電してるのは十分わかっておるんですが、特に夕方以降にエアコンが切れることによって、庁舎を使っての子供たちの研修会であるとか、各種事業の説明会、また市民を対象とする説明会や会議の開催、夕方5時に切れて、暑いという経験をされた方もおられますし、私自身も経験しておりますので、こういったところは会場をかえるなり、またはここでやらなければいけない場合には、その辺のエアコンの設定というものも考えなきゃいけないと思うんですよね。それがちょっと誰本位で会議やってるのかなというのが気になったものですから、その辺の改善を求めたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在のところ暖・冷房につきましては、8時半から午後5時で切ってるという状態であります。費用なんですけども、1時間の会議をやりますと電気料が、大体ご家庭の1カ月分ぐらいの電気料

がかかるといったことでありまして、非常に多額の金額がかかると。これはどういう理由かと申しますと、庁舎全体を1台の機械で冷やしております。ですので、1部屋であっても大きな機械を回さなければならないということでもあります。これまで個別に、例えば会議室を冷房できないか、暖房できないかという検討を進めてまいりましたが、室外機の問題や配管等の問題があつてなかなか難しいといった中で、この庁舎、今1台で回してるんですけども、これを分割して、例えば5台とか6台に分けたユニットで動かすことによって、小さな電気で部分の部屋を暖めたり冷やしたりすることが可能だということでもありますので、庁舎完成してから四半世紀がたって、そろそろ設備の改修時期になってこようかと思っておりますので、その中でそういった分散型の冷暖房機を導入したいと考えておりますし、それまでの間につきましては、市民会館もリニューアルしたということで、今、職員のほうには、できたら市民会館があいてれば、それを使ってくださいといったような案内をさせていただいておりますので、いろんな知恵を出しながら、議員の言われることは、まことにもっともだと思っておりますので、対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ善処していただきたいと思えます。

次に、温度設定ですね、庁内とか公共施設の酷暑における庁舎、事務所、図書館、学校等の公共施設のエアコンの設定温度についてであります。今現在28度設定であるかと思えます。国全体が多分そうなんだと思えますが。

本年度、皆さんもご存じかと思えますが、兵庫県の姫路市において、医師である市長のトップダウン方式では25度設定による実証実験が行われております。その理由は、職員の仕事の効率が6%アップできる計算があるそうであります。現行の28度設定よりも25度のほうが作業効率上がるため、結果的に残業が減るという理屈であります。世界の基準的設定温度は、おおよそ23度から24度だそうであります。

こういったことから、この温度自体で即その仕事の効率が変わるかどうかというのは微妙なんですけど、ただやってみる価値はあるのかなというふうに思いましたので、今回提案しているんですが、その辺のご検討いただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、保坂議員がご指摘の市につきまして、マスコミ等の報道はちょっと確認とれなかったんで、直接電話でお話を聞く機会を得ました。それ見ますと、疲労感、快適性、業務効率などの項目について現在、職員向けにアンケートを実施していると。結果集計中であるが、8割程度は好意的な意見であると。市民のほうなんですけど、中には民間は28度でやってるのに何でその温度にするんだという批判的な意見もあるけども、おおむね好意的だということで、現在集計中だそうであります。

こうしたほかの市の事例等を検証する中で、糸魚川市にとってそれが有効かどうか、費用対効果を含めながら考えていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

それから法定点検は100%、もう一つドライブレコーダーも100%に向けて動いてくださるということで、非常に感謝いたします。これがまた職員の身を守ることにもなるかと思っておりますので、本当にいい取り組みかと思っております。

続きまして、2番のアニメ、漫画、ゲームの利活用であります。

ポケモンのマンホールぶたの設置であります。これはことしの7月31日に株式会社ポケモンでは、ポケモンがデザインされたマンホールぶたを設置し、各地域の来訪客をふやす取り組みが進められております。このポケふたは、今、鹿児島県の指宿市を初め、岩手県内では13市町村の設置を公表しています。これを全国展開するというものであります。

ぜひ次の世界のジオパーク、ジオサイトのポケモンGOとも連動するんですが、こういったアニメのキャラクターを生かしてジオパークであるとか糸魚川であるとかを、逆に売り込んでもらいたい、そういう誘発する使い方をしていただきたいということで今回提案したんですが、ポケモンのマンホールぶた、たかがと思っておりますけども、逆に糸魚川のオリジナルのポケモンのふたがつくわけですから、そういったものをぜひ検討していただきたいんですが、その辺いかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご提案のポケふたにつきましては、確かにここにしかないポケモンのマンホールぶたがつくものですから、まち歩きですとかそういうものについても大変有効であると思っておりますし、ポケモンGOにつきましても、今ホームページ上でいろいろ、ここに行けばこのポケモンがということで公開をしておりますけども、引き続き、まち歩きですとか市内を回遊していただける仕組みとして検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひポケモンぶたもそうですし、ポケモンGOについても比較的自治体に取り組んでいるものがありますので、そういったものをぜひ参考にさせていただいて、子供から、お年寄りにも何か人気があるそうなので、ぜひお孫さんと一緒に回るようなプランとかもつくって、目的は世界ジオパーク糸魚川、あと糸魚川の石のまちというのと結びつけて、ぜひ展開していただきたいと思っております。

次に、昨年、本当に評判がよかった宝石の国であります。ぜひぜひこの機会に糸魚川と宝石の国の何ていうのかな連携というのを定着化していただきたいんですが、その辺の検討というのでは

きますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

シティプロモーションで石のまちを標榜するとともに、昨年行いました宝石の国のイベントにつきましても大変好評であったということから、また来年度に向けていろんな方のお知恵をいただく中で、新たな取り組みについてできないかということで考えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひよろしく願いいたします。

次に、一血卍傑（イチチバンケツ）というアプリゲームであります。これは本当受け売りで8月27日の奴奈川経済懇話会の折に中田土木部長さんよりご紹介いただいたゲームであります。調べるとやはり奴奈川姫の息子である建御名方（たけみなかた）の神というのがキャラクターとして登場してくると。要は、いろんな角度から糸魚川を知ってもらうという部分でぜひこれも活用していただきたいんですが、その辺いかなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このアプリゲームに建御名方が登場するというので、私も少し調べてみましたら、オオクニヌシというキャラクターもあるようでございます。いずれもほかの神様なもんですから、その辺の、何といいますかうちで使うことの関連性も含めてどうなのかなというふうにも思いますけども、こういうゲームがあるということで、また何か機会があればこういうものにもチャレンジしてみるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

緩やかな取り組みになるかと思いますが、ぜひよろしく願いいたします。

次に、5番の市内を走る鉄道車両のところでもあります。今回、非常に行政に感謝申し上げたいのは、6月議会で大糸線を生かすまちづくりのところ、子供向けの企画列車を検討するという回答をいただいて、きのう、おとついでですかね、子供の車掌でちゃんと制服も用意して取り組むと。しかも本当に走っている列車を使ってやると。これは多分すごく画期的なイベントになるかなと私本当に期待しております。



将来的には、本当こういう車両の中で、私の中では将来的には運転するシミュレーターみたいなものを、それも子供用のものですが運転してみるというそういうものもつけられたりしたら、普通の通勤とか通学ということよりもイベント列車化をぜひ進めていただきたいので、今回のまたいろんなデータを取りながら、また新たなチャレンジもしていただきたいんですが、そういう方向性で大糸線、えちごトキめき鉄道もそうですが、ぜひ考えていただきたいんですが、その辺いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

車掌体験の列車も先ほどの質問にも答弁をいたしました。大糸線活性化協議会の中で意見として出てきまして、今回初めて取り組むものでございます。今回、大糸線ですが、当然、田原議員の質問にもございましたけど、もう少し広い視野を持った取り組みも必要ですし、今回の場合には、大糸線に関心を持っていただく、かかわっていただくということで、子供のところにターゲットを絞って企画をしたものでございます。これからもさまざまなそういう取り組みによって観光利用とか生活利用、あと鉄道そのものに興味を持ってもらうとか、そういう活動のほうを続けていきたいというふうに考えておりますので、またいろいろご提言をお願いしたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません、ちょっと質問が飛びますけども、3番の動物愛護と避難所の安全対策をちょっと聞かせてください。

狂犬病の予防注射を行わない方への指導について文書でというふうにあるんですが、県が主導でやるのか、糸魚川市が主導でやるのか、現在1人も漏れなく予防接種されてるかと思うんですが、されない方がいたときの具体的な対応というのをぜひ教えていただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

犬の登録件数は、昨年度末で1,520頭となっています。そのうち狂犬病の予防注射を接種されているのが1,376頭、約91%となります。それ以外の方につきましては、先ほどの答弁のとおり文書にて注射がなぜ打てていないのかという確認をさせていただいております。

ただ、これにつきましては、例えば高齢であったり病気であったりして、注射をできない犬とい

うのもいますので、そういったものにつきましては、動物医の猶予証明などをもらっていただいて確認をとらせていただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

何でここにこだわるかというのは、やっぱり同行避難のときのことを考えているんですけども、ただ91%で、今災害に遭ったときに狂犬病の予防注射をしてない方が同行避難で来たときの対応というのは、どういう形になるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

避難所のペット対応につきましては、避難所に動物が来た際には、ペットの登録カードというものにわんちゃんとか猫の状況ですとか接種している状況ですとか、そういったものを書いていただくものを提出していただいております。そういったものによりまして、接種していない、いるなどがおられる場合については、例えば分けておくとかそういったような対応になるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

分けておく、接種されてない犬とかその持ち主はどうなるんですか。接種されてないことが判明した場合はどういう対応になるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

避難所では、小規模な避難の場合については、一緒にいていただくことも可能なんですけど、大きな避難になりますと、動物等はそちらの指定の場所等に一旦移動していただくことになりますので、そういったところでエリアを分けて保護するというような感じでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

私が聞きたいのは、ちゃんとゲージに入れて人に触れないようにするとか、そういう何ていうかルールがきちっとできてるかということを知りたいんですけども、あとそういう接種してないということがちゃんとわかるようなところで管理するとか、何かそういう手だてというのを、要は具体的に知らされていないと思うんですよね。そのためにやっぱりペットの同行避難の訓練だとかそ

ういうものを周知していただきたいと思うんですが、今後、具体的に今その計画というのは、どのような、ペットの同行避難については。計画の今、進捗状況とかどうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

ペットの避難の際に対しましては、今おっしゃいますようにゲージで移動されてくる動物もいますし、直接避難してくる動物もいるかと思えます。そういったものも含めて避難するエリアというのを区別したいというふうに思っておりますし、現在、避難所の設営の中で、この避難所ではこういった場所に動物を配置するというような計画もつくっておりますので、そういったものの中で対応したいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ペットの同行避難の訓練については、今ゼロベースという感じなんですか。それとも何かある程度、計画が進んでいる状態でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

現在のところ避難訓練等の中に入っておりませんが、今後の防災訓練等の中で組み込みながら実施をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

明確な日時がいただけないので、まだちょっと曖昧なのかなというふうに思います。

次に、ちょっと番号4番、スポーツ振興についてであります。

この生き生きスポーツ都市宣言のところの2番のところちょっと具体的な事例を挙げて紹介したいと思います。

6月定例会の質問で、子供のやる気を削がないための支援や施設整備をお願いいたしました。そのとき小島課長より、学校体育と社会体育のこととなるので検討する旨の答弁をいただいております。学校体育、社会体育、また市と県など所管がはっきりしないものについての対応は、スポーツ都市宣言のまちとして取り組むべきだと。先ほど答弁でも行政が行うものというふうにいただきました。

そこで、1つの例なんですが、市内にある県立高校の野球部のグラウンドのナイター照明や悪天候時の屋根つきのブルペン、過去に野球部のOB会や講演会、部活の保護者会などが呼びかけて、

高校に寄贈をしております。現在、その照明が10灯あるうち、5灯が球切れで、安定器も故障している状態であります。部員の数や欲しい施設が、高価なため我慢をしているというのが現状であります。

つまり、課外活動、部活ですね、課外活動である部活の照明機器となると、県や市の備品として扱いが難しいという背景がございます。ただ、いざというときに学校ですから避難所として重宝される機器でもありますので、糸魚川市の市民や糸魚川市にある高校に通ってる生徒のことを考えると、スポーツ都市宣言しているまちとしての部分と、あと災害時の避難所機能という部分で、こうしたものについて相談できるような体制をぜひつくってもらいたいなということで、今回提案したんですが、その辺、先ほど行政で行うと言われましたけども、どの程度対応できるものか、ぜひ教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に高等学校の施設というのは、非常に難しいところございまして、以前もそういうのが例にありました。市が、じゃあ新潟県がやらないから、じゃあ市がやるということで進めたんですが、直前でそれはだめという形もありました。また、逆に違った形で積極的にぜひお願いしますというようなこともございまして、ケース・バイ・ケースで一概にはなかなか判断できないかな、我々今までの流れを見ておまして、最近がうまくいったから、ずっとうまくいくのかなということになると、全てじゃないような気がしますので、具体的なものについてやはりどうあるべきかという形になっていくんだろうと思っておまして、個々によって違う部分があるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

まさにケース・バイ・ケースなんですけど、その窓口を糸魚川市としてやっていただけるのかというところを確認させていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

糸魚川市のほうで当然仲立ちをして、県のほうに働きかけるという、そういった対応はさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

次に、スポーツ振興のところの陸上競技場ですね、今、3種の公認をとっていただいているんですが、投てき用の防御ネットがすごく高額なため、その取り付けが何か危ぶまれているというような話を聞きました。もしそれがなくなると、4種というふうに降格されてしまって、そこでできる競技体がまた変わってくるんですけども、非常に高価なため、その辺が難しいんでしょうが。要は、ネットがある場合、ネットがない場合の糸魚川市として陸上競技場をどう活用していくのかとか、どの程度の大会を誘致していくのかとか、そういうプランニングというのは非常に大事かと思うんですね。場合によっては、高価なネットであってもいろんなイベントであるスポーツ大会であれ誘致するのであれば、長い目で見ればやったほうがいいということにもなりかねないので、その辺の検討の内容というのをどういう形でやられているのか、ぜひ教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

30年度の3種の公認の際に、検定員から投てきサークルについては検討課題ということで、意見つきで承認をいただいたところでございます。

投てきサークルにつきましては、やはり競技人口が少ないといったこともあって、なかなか高額でもありますので、対応については苦慮しているところでありますが、現在、今回の公認の際までに、現在も協議させてもらっているんですが、陸上競技協会とその辺の競技の内容だとか活用について、若干意見交換をさせていただいたところでございますので、陸上競技以外の競技の活用も含めて、そういった関係者と今後意見交換をする中で検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

私としては、ぜひ3種を何とか守っていただきたいなというふうに思うんですが、使い方によっては4種になってももっと効果的な使い方があるんだということであれば、また紹介していただきたいと思います。

次に、美山球場の両翼についてであります。この野球場にこだわってるのは、AEDの関係でBCリーグさんがMIKITO AEDプロジェクトをやっていたりとか、あと今回、北陸新幹線の開通に伴って、いわゆる北信越エリアで見たときに、やっぱり糸魚川というのは1つの結節点というか、富山、石川、福井、長野、新潟という部分で考えたら、本当、中心地点になるので、ここでやっぱり野球というものを交流試合だとか交流合宿とかというのをぜひ積極的にやってほしいんですね。そのために両翼を拡幅したほうがいいのかなという観点で思ってるんですけど、そういう積極的な取り組みというのは、今現在考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

教育長の答弁にもございましたとおり、今のところは拡張よりも施設の環境等に重点を置く格好で進めてまいりたいというふうに考えておるところです。

BCリーグにつきましては、MIKITO AEDプロジェクトということで毎年開催をさせていただいておるところであります。昨年度の管理棟内の施設整備について、ことしの開催については大変喜んでいただきましたし、95メートルについてもお話しさせていただいたところありますが、特段、BCリーグさんにつきましては、こだわらないという回答もいただいております。合宿等におかれましても芝生、水はけがいいという環境も含めて大学等の誘致にPRし、努めてまいりたいというふうに、現状では考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ、要は糸魚川を利用していただくという観点でぜひ検討していただきたいと思います。

次に、オリンピック種目になった、要はバスケットボール、いわゆる昔はスリー・オン・スリーと言ってたんですが、今はスリー・バイ・スリーというんですかね。ぜひ以前も屋外のバスケットボールのゴールの設置をお願いしているんですが、その後、何か進捗はありましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えいたします。

小学校のときに行っていた生徒が中学校に進学をし、今現在、大人の一般の方と合同の練習をしておるところでございます。4月に入りまして、練習等を見学させていただいて、その後、意見交換を、若干の雑談でございますが、意見交換をさせていただいたところございまして、競技人口については、能生地域であります。なかなかふえていないのが実情であります。名立からの生徒も含めて練習をしておるところでございます。

ジュニアのミニバスケットの保護者等については、まだ協議する場を設けてはおりませんが、近いうちに設けたいという話はさせていただいてるところでございますが、なかなか以前にもお話ししたとおり、設置する場所等、安全確保を考えるとなかなかないのが実態であります。現在のところはそんなような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ことし、お隣の富山県からの身長203センチの八村 塁さんがワシントン・ウィザーズというアメリカのバスケットボールチームに入ったと。要は、子供たちの夢をかなえる。またやりたいスポーツができる。そういう環境整備という観点で、要は競技人口が少ないからというのは逆説的にとると、やっぱりそういう場所がなかったり指導者がいなかったりという理由にもなるんですよ。そういう観点で、もう少し突っ込んだ検討をぜひお願いします。いつか前向きな回答がいただけるのを期待して待っております。

続きまして、5番目の少子高齢社会を乗り切る政策についてであります。

バス路線につきましては、いろいろご意見いただいております、9月5日の日ですか、大和川地区の方10名ぐらいの方と意見交換をする機会がありました。いろいろお話を聞いていると、やはり前のルートのほうがいいという声が大半でありました。現在の路線バスも本当に行政もバス会社も苦勞してつくられたルート帯でありまして、そのことも私のほうからも訴えさせていただきました。

ただ、一度、バスの、例えば竹ヶ花地区がエアポケット状態になっているとか、あと早川の奥のバスの停留所の位置がまずいということが意見としてあったりとか、やはりもう一度この機会に意見徴集をして、できる、できないは別にして、何かまた工夫ができることを検討する意味で聞き取り調査というものを早急にやっていただきたいなと思うんですが、その辺の考えいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

過去に交通網の形成計画、基本計画をつくってまいりまして、その後、再編実施計画、昨年度は、その再編実施計画に基づきます路線バスの実際のダイヤ設定というものをいたしまして、昨年秋の一部、ことしの4月から本格的に再編実施計画に基づく新しい再編ダイヤを運行させていただきました。

これまでに春の再編以降、非常に多くの声、あと便り等をいただいております、やはりその中では、乗り継ぎ、糸魚川病院で日中のダイヤは乗り継ぎというものを求めております。乗り継ぎ方がよくわからないですとか、乗り継ぎというのが負担になるとかという声が多くいただいております。それ以外は、再編後のダイヤでちょっと時間帯が不便になったというのも多くいただいております。その辺のデータ分析みたいなのを私どもは進めておりまして、本来の予定ですと、ことしは今まで再編実施計画でなかなかちょっと地域に入っていけなかった青海地域ですとか、コミュニティバス等で運行しとる中山間地のほうに入っていく予定にしようとしたんですが、それと並行しまして、特に糸魚川病院で乗りかえを、結果的に日中ダイヤで強いることになってしまった東側の西海のほうですとか早川の方面の方に当然、大和川もその路線に入ってくるんですが、その方とも今後、出向きまして、意見交換というものを始めているところがございます。それとあわせまして、現在バスの中で実際にバスに乗っていただくとというお客様からも、今アンケートによって意見等を収集しまして、できる改正、できる調整というもののあり方というのを今考え始めてるという現状でござ

います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

課長のほうでも大分把握されているようです。皆さんも手づくりの時刻表を持っていて、工夫されてたりとか、あとこのバスがどこへ行くのかわからないという不安にさいなまれながら利用しているとか、あと駅の南口と北口、要はアルプス口と日本海口での利用の仕方がよくわからないとか、いろんな声を伺っております。そういった点をまたぜひ確認していただいて、善処できるところは善処していただきたいと思います。

次に、今回お話を聞いててつくづく思ったのは、買い物、病院もあるんですけども、いわゆる温泉を利用したいという声が非常にありました。それで、そうであるならば、温泉の施設とも連携をとって、温泉目的の、このバスの運行とか、要はお互いにウイン・ウインになるようなちょっと形態にしなきゃいけないんですが、検討してみる価値はあるのかな。

なぜそう思ったのかは、今年9月10日に糸魚川市民会館で行われた施設研究大会の講演の中で、社会福祉法人佛子園さんの取り組みを拝見させていただきました。地域住民に施設の交流を深める手法として、温泉の無料化という大胆な取り組みで成果を上げておりました。高齢者の生きがいがづくりや外出支援として、体を動かす目的として市が行っている老人いこいの家の活用方法など、そういったものを路線バスとかとリンクさせながら、何か高齢者にとってもバス会社にとっても利益のあるような方法が何かできないかなと思ったんですが、そういった検討をぜひしていただきたいんですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご提言大変ありがとうございます。糸魚川の場合、笹倉温泉ですとか権現荘とか、割かし目的地となるところが路線バスでいう一番端部といいますか、そういうところにある程度固まったお客さんを運ぶということがございます。端部ということは、走行区間というのがかなりいろんな地域を回って入ってくるという、そういう実情がございますので、たまにというかイベント的に今ワンコインバスとかそういうことをやっておりますけど、温泉バスとかそういう企画的なことはできるかと思うんですけど、温泉をメインにというふうになかなか考えますと、中間的にいろんな地域でいろんなニーズを拾いながらの端っこにある温泉ということもあるものですから、そういうところも合わせて考えていく必要があるかと思っておりますので、今回のそういう温泉をターゲットにしたというところは、ご意見としていただきたいと思います。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）



川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

高齢者の交通の助成につきましては、お出かけパス半年あるいは1カ月のフリーパス券ございますので、そういったものを活用していただいて、いこいの家へ行く交通手段としていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひ検討をお願いします。

最後に、難病、重度障害を持つ子供の世帯の支援であります。

市内で、いわゆる前例がない病気等の対応となるとなかなか担当職員の方も大変かとは思いますが、そういった対応マニュアルとかそういうものというものはあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

マニュアルは存在するかというご質問ですが、マニュアルは今、現段階では持っておりません。そういった特異な病気にかかれて、ご出産になられたという場合には、医療機関と連携をとりまして、そういった養育支援会議というものを県、市、医療機関等と関係機関が連携して、会議を行っております。うちの保健師がご自宅であればご自宅に訪問させていただく中で支援方策を関係機関と共有して、必要な支援をさせていただいてるというような現状でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

私が相談を受けた方は、支援が受けられなくていろんな家の中の少しリフォームをしたというお話を聞いておりました。それは情報が足りなくてそうだったのか、制度がなくてそうだったのかというのは、ちょっと詳しく聞けなかったんですけども、逆に言うとやはりそういうのがあからさまにわかるようにさえしていただければ、何か不測の事態にも市民も迷わずに対応できるかと思うので、その窓口であったり、ホームページの作り方であったり、そういったところにぜひ工夫をしていただきたいと思いますと思うんですが、その辺の対応いかなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

障害者に対する各種補助事業、リフォームも含めてございますが、福祉事務所でいろんな制度が

ございます。冊子にして、しおりでお配りしておりますが、非常に制度が複雑・多岐でございます。また、ホームページでも公開しておりますが、不明な点があれば市役所のほうで、またご相談させていただきたいと思っておりますので、ぜひ必要な方はご活用いただきたいと思いますと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

今回、相談を受けた方、特に本当に赤ちゃんというか小さなお子様で、バギーカーにいろいろなまた装置とかついたりという特殊なバギーカーらしいんですね。そういった支援をぜひお願いしたいんですが、その辺大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

お答えいたします。

生まれたばかりの障害をお持ちのお子さんにつきましては、やはりまだ障害が固定してないということで、障害者手帳が取得できない状況であります。そういった方につきましても、やはり県のほうで認定があれば、小児慢性特定児童ということで、そういったバギーカーの給付も行っておりますし、手帳が取得できれば補装具ということで一定の基準額ございますが、その範囲の中で、基本的には所得によって補助が異なる部分があるんですが、個人負担1割でご購入いただいておりますので、そういった制度もご活用いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません、私の勉強不足なところありました。でもぜひ市民にわかりやすいサービスをお願いいたします。

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

今回、平成31年度全国学力・学習状況調査の結果についてをお伺いいたします。

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果が、この8月の教育委員会定例会で報告されました。その結果と今後の課題についてお伺いいたします。

- (1) 今年度に行われた調査は、前年度の調査方法から一部変更されていると思います。その違いは何でしょうか。
- (2) 調査方法に変更があったものの、前年度等の比較で全国平均に比べて上回る結果となった項目、逆に下回った項目は何でしょうか。
- (3) 上回る結果となった要因は何と考えているのでしょうか。また下回った要因を何と考えているのでしょうか。
- (4) 学力向上及び学習習慣の定着などに向けて、教育委員会として今後の取り組むべき施策をどう考えているのでしょうか。

2番、6月に行われた防災避難訓練の課題について。

今年も6月23日に地区ごとに防災避難訓練が実施されております。現在の地球温暖化で、全国どこでも激しい降雨が起こってもおかしくない状況と考えられます。そこで特に水害に関する今後の防災及び避難訓練について伺います。

- (1) 過去、市内で発生した水害の中で最も大きいと思われる平成7年7月11日の水害で、平岩地区では1時間雨量が50ミリ、降り始めから485ミリと記録されています。どの程度の降雨量が危険と考えているのでしょうか。
- (2) 「糸魚川市地域防災計画資料編」に「土石流危険渓流」220カ所、「地すべり危険箇所」208カ所、「急傾斜地崩壊危険箇所」135カ所、「山地に起因する災害危険箇所」などが記載されております。そこには人家戸数も記載されています。その戸数は地域の戸数よりも多いような地域の戸数のように思われますが、「土砂災害ハザードマップ」などに記載された崖崩れ・地すべりの区域内の戸数と一致するのでしょうか。
- (3) 現在の避難訓練は、多くの人たちの参加を大きな目標として実施しているものと思われます。しかし、避難訓練は、本当に危険な箇所にある家屋の方がどれほど参加しているのでしょうか。

ことしの鹿児島での避難勧告でも、0.6%の人しか避難が行われなかったことがあった。この点をどのように考えているのでしょうか。

多くの市民は、避難とは避難所に行くことだと勘違いをしているように思われます。昨年、九州で妊婦の人が避難所に行ったところ、満員で別の避難所へと言われ、行き場所がなかったとの報道もあり、避難所の問題点も指摘されております。

降雨による水害は時間とともにあらわれてくる。現在の気象予報ではかなりの確率で当たっております。そこで雨が降りだす前の避難、いわゆる事前避難といいます。それも公が設置する避難所ではなく、家族や知り合いなどに避難する（身内避難）として取り入れてはどうでしょうか。

避難訓練も今までどおりのほかに、危険な家屋に重点を置いた方法で行うことも必要と考えるがどうでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願い申し上げます。

2 番目の 1 点目につきましては、市内の雨量観測所において時間雨量 40 ミリ、累計雨量 140 ミリを超えた値が警戒値となっておりますが、土砂災害については、雨が降り続く時間や地形の形状等で危険度が違うため、一概に何ミリの降雨量で危険という判断はできないと考えております。

2 点目につきましては、土石流危険渓流等の土砂災害危険箇所は、土砂災害への備えや警戒避難に役立てていただきたいことを目的に調査いたしましたものでありまして、土砂災害ハザードマップの区域は、土砂災害による生命、または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域を示したものであるため、一致いたしておりません。

3 点目につきましては、避難勧告がでて人も自分には不都合な情報は無視し、自分は大丈夫だ。まだ安全だと思いつく心理状態が大きく働いたものと認識いたしております。

身内避難につきましては、有効な避難方法の一つと考え、出前講座等で周知いたしております。

避難訓練につきましては、ハザードマップを活用した訓練を総合防災訓練等に取り入れていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の 1 番目のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、知識と活用を一体的に問う調査問題への変更や中学校での英語調査の導入等の変更がありました。

2 点目と 3 点目につきましては、小中学校とも、国語が全国平均を上回り、算数・数学及び英語は全国平均を下回りました。

上回った要因として、小学校では 28 年度から取り組んでいる陰山メソッド、中学校では 29、30 年度に受けた県指定の国語の学力向上専門監による授業改善が挙げられ、下回った要因としては、算数・数学では設問を理解する力、英語では文法を理解しての記述に課題があると捉えております。

4 点目につきましては、基礎的な内容の徹底反復や一層の授業改善に取り組むとともに家庭での学習時間の確保に努めてまいります。

また、英語では、今年度より県指定を受けた学力向上専門監による授業改善について、市内の 4 中学校で研究し、小中学校の教職員にその成果を広めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。1番の、いわゆる前年度調査方法から一部変更と言いますけど、もっと詳しく教えていただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

前年度までは、A問題とB問題、知識問題と、それから活用問題というふうに用意されておりましたけれども、今回はA、Bというものがなくなりました。どの問題も活用というふうに考えているかということでございます。

また、中学校では英語が入りましたということで、それはそのとおりでございますし、設問のほうについては、とれた問題と、それから新たに加わった問題があります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

まず、小学校の学力のほうでお伺いしたいと思います。

昨年度と比べて、国語、算数の数値的にどんな状況でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

今ほどお話しさせていただきましたように、昨年度は、A、Bございましたけれども、今年度は活用になりましたので、B問題との比較、昨年度のB問題と今年度の問題との比較としますと、昨年度は、B問題で全国比でプラス2.3でございましたが、今年度は、国語はプラス5.2となっております。

算数のBについては、マイナス0.5でございましたが、このたびはマイナス1.6となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私、自分でAとBを平均して、それと比較してみたんですけど、Aのほうは昨年で62.7、Aじゃなくて30年度ですね。それに対して、国語のほうで今年度は64というふうに1.3ほど上がってるというふうに思います。勘違いいたしました、申しわけありません、訂正させてください。国語が62.7、ちょっとわからなかった、ごめんさない。昨年度よりかなりよくなっているというふうに思うんですけど、先ほど陰山メソッドとかいろんなことありましたけど、もう一度その点、よくなった要因として何が考えられると思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

国語についてよくなった点、まず1点目、毎年、NRTの標準学力テストと陰山メソッドと比較してる数値がございまして、28年度以降、わずかではありますが上向きになっております。したがって、その点について評価できるかと考えております。

それから、市のほうでも出しております授業改善のシートがございましてけれども、その点についても広めておりますので、各校で確実に取り組んでいただいているというふうに思っております。その他学習支援員等の配置等の策もございましてけれども、大きくさきに述べました2点があるかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

中学校のほうについてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

中学校の国語Bの比較になります。国語Bと本年度の国語の数値の比較をいたします。

国語Bにつきましては、昨年度マイナス2程度でした。今年度プラス2となっております、その差はかなり上がってるかなというふうに考えております。

また、数学についての比較ですが、本年度もマイナス値だったわけですが、昨年度おおよそ6ポイント程度あったわけですが、今年度3.8となっております、その点は評価できるかと考えております。

以上です。

失礼しました。英語については、昨年度、実施されておられません。本年度マイナス2程度となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

陰山メソッドが、もう始めて4年目ですかね、やはりこれも中学校のほうの上昇に影響あるというふうに考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（泉 豊君）

先ほどお答えしましたようにNRT等の比較から、効果についてはあるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

学力のほうは、確実に上がってきとるというふうに考えられると思います。いろんな面でかなり上昇してるんで、いい方向に向かっているかなというふうに理解しております。

次に、生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査がありますけど、これの中で、特に全国平均より大きいものについてお伺いしたいと思います。幾つかご紹介いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

質問紙の結果につきましては、小中学校とも地域にかかわる項目、それから話し合いや発表活動にかかわる項目が、全国比10以上として顕著としてお伝えすることができるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

小学校も中学校も今住んでいる地域の行事に参加していますか、全国に比べて22.3ポイント上というふうにありますけど、これはやはり糸魚川で行っているいろんな、例えばコミュニティスクールであるとかいろんなことの要因だというふうに思います。そういうことが、いわゆる子供にも地域との連携を強くしてるんじゃないかというふうに考えますけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（泉 豊君）

糸魚川の場合、学校、地域の結びつきは、非常に前から強いわけですが、一層、コミュニティスクール等の取り組みにもよって、さらに強くなっていると思いますし、あと子供たちもそのよう

に育ってると思います。地域への参加興味も高いのではないかと判断しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

小学校、中学校も、地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますかということに対しても、小学校で11.7、中学校で12.2と、いわゆる地域を考える子供が多くなってきとるなというふうに考えております。

実は、きのう市長のお膝元であります根小屋で奉納相撲がありました。それに根知の小学校が、もう学校を挙げて応援に来ると。実際には、大人の相撲の後に小学生の、いわゆる相撲大会をやらせる。実は、それに2代前の校長が、60近くになっても裸になりまして、青年の部に参加した。そういうことが、1つの伝統となって、ことしは実は校長先生は裸になっていただけなかったんですけど、男子の教員が3人全部裸になっていただいて、やはりそれを応援する子供、父兄の方、やはりこういうことが、いわゆる地域を考えるものに大きくつながってるというふうに考えるんですね。そういう面では、いわゆる地域と一緒にやってということが十分、むしろ本当はかなり必要ですし、そういうことがこういうものにつながってるかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

議員おっしゃいますように、子供が育つためには地域が盛り上がり、学校の職員の仕事についてもサポートされていく必要があると思います。ですので、どの行事についても全て参加というわけにはいかないかもしれませんが、お互いにやりくりをしながら子供を育てていく、その地域の結びつき、学校との地域の結びつきは、とても大切だと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

いわゆる地域の祭りに子供、中学生も高校生も参加するということが、地域にもっと根づくようなことというふうに考えるんですけど、事実で、例えば根知の小学校あたりは、地域的に参加しやすいのかもしれませんが、でも、逆に糸魚川小学校だとかそこらあたりは、なかなかいろんな糸魚川小学校ですと例えば横町の祭り、上刈だ、いろいろ分かれてますね。そういうことじゃあ参加しにくいかもしれませんが、これ校長の判断だというふうに思うんですけど、教育委員会として、そこらから支援するようつもりはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）



根知小学校等の取り組みについては聞いておりますので、校長判断等で行われております。また、そういう取り組みがあった場合については、教育委員会としても何らの支援、できる場合についてはしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほども言いましたけど、規模の大きさによってなかなか難しい面もあるかと思うんですけど、ぜひともこういうような活動に地域を挙げてやるということが必要でないか、それがいわゆる地元愛につながっているというふうに思いますので、ぜひともそんなふうな方向で考えていただければと思いますし、校長に圧力をかけるという言い方ではないんですけど、やはり地域としてこれも教育の一環だというふうに考えてるというふうに言っていただければ、もっと参加が多くなるんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど根知小学校の例が申し上げられましたけども、例えば青海地域においても青海の竹のからかいという伝統行事に、小学校の児童が参加しているという事例がございます。

具体的に数字で少し申し上げさせていただきますと、地域の行事に参加していますかという小学生が90.3%、全国平均が68.0ということですので、20ポイント以上プラス。

また、中学生におきまして68.9ということで、全国平均が50.6ということで18.3ポイントも上ということで、その部分については、今後も継続するように各学校のほうにも働きかけをしてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

逆に、マイナスの部分はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

課題が顕著であった項目としまして、小学校マイナス10ポイント以下はございません。

中学校での家庭の学習時間については、マイナス10ポイント以下になりましたので、これは大きな課題かというふうには思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

なかなか家庭学習を上げるというのは、難しいことだと思うんですけど、その点何か改善策なんか考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

すぐに策を講じるということは、なかなか難しいことですが、糸魚川市が進めている生活リズムの改善であるとか、それから家庭での時間の使い方、この点について考えさせていく必要はあると思っております。

○議長（中村 実君）

質問の途中ではありますが、あらかじめお諮りいたします。

質問時間が午後5時を過ぎることが予想されますことから、本日の会議時間を延長したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

ご異議なしと認めます。

よって、会議時間を延長することに決しました。

山本議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

全国学力学習調査の結果を受けて、学力面では算数・数学、そして英語はまだ全国点には届かないものの、確実に上昇傾向と感じています。これは、陰山メソッドの影響が大きいと考えています。

実は、一部の父兄から、陰山メソッドに対する疑問の声も聞かれるのも事実であります。しかし、全ての施策、学習方法など完璧なものはないというふうに考えております。

先日、東小学校で行われた陰山メソッドの研修会で、陰山先生に質問をさせていただきました。陰山メソッドを進める上で必要なものは何か。先生は、電子黒板やオーバーヘッド、そしてプリントなどを入れる収納ボックスというふうなことを言っておりました。ぜひとも今年度または来年度の予算で、ぜひともこの2つの設備をお願いしたいというふうに思っております。

陰山先生は、ことし全国で糸魚川に来てくれたような講演を10回ほど行うということであり、そのうち3回が糸魚川を予定しとるというふうにも聞いております。先生の意気込みの大きさを感ぜられます。ぜひともその意気込みにかなうような設備も必要と思います。

また、先日のテレビで、小学校、中学校のWi-Fi設備についての放送がありました。しかし

10%を超える学校しか設置してないとのことであります。私は、このWi-Fi設備もぜひとも予算化をして、近いうちにお願ひしたいというふうに思います。この設備で、先生の多忙化が和らぐのではないかとこのふうにも考えております。ぜひともよろしくお願ひしたい。この点、市長にお伺ひしたいと思ひますけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まず、どういう経過があるのかというようなこともあろうかと思うわけでございまして、ただ、機械・器具だけではないと思っております。そういったどのような形を要するのかというものをしっかり見きわめていかなければいけないのではないかなと思っております。そしてまた、我々はやはり、この学校の授業に向かっていく生徒の、やはり意識改革的なものが必要になってくるんだろうという形で陰山メソッドとともに取り組んでおる部分がございます。ですから、これからさらに進めていく上には、やはり今の調査の中にも上がっておりますように家庭教育をどのようにしていくか、そういうところをやはり一番大切になってくるのではないかなと思っております。児童生徒の学習意欲を高めるためにも、やはりその意識をしっかり持っていただくような環境をつくっていくことが大事だと思っておりますので、それに資するものであれば、我々は取り組んでいきたいと思っておりますので、その辺を検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は感じるんですけど、陰山メソッドの中で音読というのがあります。それを実際にやるとみんな下を向いて、こうやって見ますね。実は下を向くと、やはり前向きな心がだんだん下向きになるんだと思うんです。やはりオーバーヘッドみたいに上にそういうことが書いてあれば、頭を上げて上を見る。それによって声も大きくなると思ひますし、それが自信につながると思ひます。ぜひともそこらあたりを、観点を考えていただいて、行っていただきたいというふうに思ひます。

次に、6月に行われた防災訓練の課題についてお伺ひいたします。

先ほどの答弁の中で、1時間当たり40ミリと400ミリというふうにお伺ひしたかと思ひます。実際には今、全国で本当に1,000ミリにも達するような雨というふうにありますけど、糸魚川でもそういうことが考えられないわけでもないんですけど、そこらあたり、もし1,000ミリが降ったら、糸魚川がどのような状況になるかというふうに考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

雨量観測所の警戒値につきましては、時間雨量40ミリ、それから累積雨量140ミリでございます。それで、今ほどおっしゃいました1,000ミリも降れば、もう市内至るところ甚大な災害が発生しているというふうに予測させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私も70年生きる中で、やはり7・11が最大の水害であったように思います。ぜひともというより、本当に1,000ミリを超えるような雨が降らないことを願っております。

その7・11災害のとき、私も須沢で堤防まで行ってみました。1メートルぐらい下だったかな、水が流れておりました。あのときは姫川の水崎の一部が損壊したと思います。実際にそれ以上の雨が降れば、本当に洪水、いわゆる氾濫して、市内の低地にみんな水が流れるのかな。でもそうはなかなかないことを願ってます。

でもそれに達しなくても、やはりかなりの水害のときに地崩れだとか、いわゆるそういうふうなものがあるかと思えますけど、やはり先ほどの九州の災害でも0.6%しか避難しなかったというふうにありますけど、これは避難所に来た数だと思うんですね。実際には、皆さん自主避難で高台に逃げたとかそういうふうな感じだと思います。そういう面では、自主避難というものを重きを置かなきゃいけないんじゃないかな。本当に自分のうちが、崖崩れで潰れそうだとか、床上浸水になるという方が、本当の意味で避難所へ来るんならいいんですけど、逆に何でもない高台の人が来て、避難所を満杯にするというのもいかなものかと思えますけど、その点どのように考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

私も九州の報道を見させていただきました。鹿児島市のほうで検証した結果、避難所になかなか避難しなかった。それからわざわざ近いところに逃げずに遠いところの避難所に行ったら、満杯で入れなかったということもあります。やはり市民が、まず避難所、それからとりあえず身の危険を避ける緊急の避難場所と混同があると思います。早い段階で避難できれば、皆さん避難所に避難していただければよろしいかと思うんですけども、切迫した状態であれば、近くの緊急避難場所、それから地区で定めております一時避難所、あるいは知り合いのところということは大変有効だと思いますので、そういったことをこれからはPRしていかなくちゃいけないと思います。そうすることによって、一部の避難所に人が集中するというのも防げるのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私も須沢の比較的高台、高台ではないんですけど本当に洪水になったときにゼロから50センチ程度の水だろうというふうにはハザードマップにあるところには住んでるんですけど、家内とよう話をするんですけど、姫川が氾濫したときは、さてどうするかという話をよくしたりもします。でもそれ以外の、例えば本当に警報が出てもなかなか避難はしないんだらうな。これ一般的なものの感覚ではないかと思えますね。そういう面では、本当にそういう300ミリ、400ミリ、それぐらいの雨が降ったときには、本当に裏山が崩れる。自分のうちが崖の上にあって崩れる。やはりそういう方を中心に避難が必要だと思えます。そこらあたりは、消防のほうは把握して、個々に避難をメールすることもあるかと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

消防のほうでは、雨量につきましては、常に情報を収集しておりますし、県の土木部の土砂災害警戒情報ですとか、それから気象台のホームページ、それから気象台からは危険が迫ってきますと直接電話も来るようになっております。そういったものを見ながら、当然もう300ミリという状態になれば、既に気象台、それから土木部が共同で発表する土砂災害警戒情報がもう発令された状態だと思われま。その状態では、もう避難勧告なり避難指示を出しておりますし、その土砂災害警戒区域については、重点的な広報等を行って、安全対策をとっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

実際にそういうのになったときに市内の介護所なんかでは、もう本当に事前に避難するというふうにも聞いているんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

一つの例としまして、市内のある社会福祉法人、福祉施設を幾つか持っておられる法人なんですけども、施設が土砂災害警戒区域内にある施設がございますが、雨が降りますと、それを自分たちで状況を把握しながら自主的にもう市からのそういった避難情報とか出る前に、自主的にもうほかの施設に入所者を避難させるという取り組みをやっているところはあります。そういったみずから気象情報等を見ながら、自主避難するということは大変いいことですので、そういったことをほかの施設にも紹介したり、また一般の市民へも紹介していきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川の火災のときも、避難所が設置されたと思うんですけど、もう数日のうちに糸魚川の場合には皆さん、知り合いだとかあちらに避難になって、閉所になったと思うんですね。そういう糸魚川はそういう地域柄があると思いますので、ぜひとも自主避難、そしていわゆる身内避難といえますか事前避難、もう雨が降る前に、逆に言うと予想して避難する。そしてそれも公が設置する避難所ではなくて自分の知り合いだとか親戚に避難する。やはりこういうほうに持っていくことが、一番私は重要だというふうに思うんですけど、その点改めてまたお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

丸山消防長。〔消防長 丸山幸三君登壇〕

○消防長（丸山幸三君）

お答えします。

おっしゃられる身内避難というのは、大変有効な避難だと思います。気楽な環境の中で過ごせるという意味では、避難者にとってもいいところだと思います。

ただ、家から遠ければ早目に避難していただくなくちゃいけない。ですから早目に、自主的に気象情報等を見ながら判断していただくことが大事だと思います。

それで、私どもも出前講座でお話をするときには、避難というのは避難所へ行くことだけではなくて、そういった身内、知り合いのところへ行くことも避難ですと。そういうような話をさせていただいております。その際には、地域のいざ災害に遭ったときに、地域の方が避難していつてるかどうかに見られて、被災してしまえば困りますので、避難する際には、消防本部なり市役所、あるいは近隣の方に知らせてくださいというお話をしてるんですけども、我々が発行しているハンドブック等には、身内避難については実は書いてございません。そこら辺の周知が、今までちょっと不十分だったなと思っておりますので、今後は、身内避難も有効な避難なんだということも含めまして避難方法の啓発等を進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。本当に身内避難が、私一番最初の有効な手段だというふうに思いますので、ぜひともこの方向で向かっていっていただければというふうに思います。

昨年の6月に避難訓練が実施をされました。年々、参加者がふえてきているものと思います。災害に対する市民の意識も上がってきているものと思います。

しかし、避難指示前にもう移動を開始してるなど、指摘事項もあります。訓練が形式化しているようにも感じざるを得ません。

先日の村上の地震で、津波警報が発令、高台の方が低地にある公民館に避難をしてきたというような報道もあります。避難というと避難所に行くことと勘違いしている市民もいることを感じざるを得ません。そのことを考えると、いろいろと問題点があるように思えてなりません。

また、昨今の異常気象、異常気象というより地球温暖化で、もう通常の気象と言えるようにさえ

思えます。そして、全国どこでも降雨による水害が予想されます。降雨による災害を防ぐには、それなりきの設備が必要でしょう。しかし、国も県も含め、財政難では堤防を高くするとかいろいろなことをやるだけの予算もありませんと思われる。

そこで、災害を予測した早目の避難が重要と考えます。今まで申してきた事前避難、身内避難を行政として真剣に考えなければならぬ時代と考えております。ぜひともその方向でお願いしたいと思えます。

市は、ハザードマップを作成して、各家に配付しております。しかし、これだけでいいのでしょうか。

前日の糸魚川高校の防災の教育の中でも、高校生はハザードマップを見ていないという実態が明らかになっております。ぜひとも、いわゆる全市民が少なからずハザードマップを見て、理解できる人が、やはりもう一度見直すような、そういう啓発もよろしくお願いしたいと思えます。水害が発生しても、被害者を出さない避難方法をつくり上げなければというふうに考えております。行政が中心となって市民意識の向上に努力、必要と切に感じております。その点よろしくお願いしたいというふうに思えます。

最後に、先日の台風で千葉県がまだ停電が続いております。昨年12月に電力のことで、私は質問させていただきました。まさに懸念することが関東の、いわゆる千葉を中心としたところで起きております。糸魚川でも、この電力について、私が12月に提言したことも再検討していただきたいというふうに思えます。

これで私の質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後5時12分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員